

資格)スルモノハ國家ノ一成素ト認メ公民權ヲ付與シタルモノナリ被告ハ本家即チ叔父ノ宅ニ養育ヲ受タルモ前陳ノ如ク能力ヲ有スルヲ以テ別居スルハ何レノ時ト雖何ソ選ハソ然ルニ叔父彌藏夫婦ハ一ノ嗣子ナク且叔母即チ彌藏ノ妻ハ病身ニシテ諸事万端ヲ五十以上ノ老人ナル叔父一人ニ一任スルハ骨肉ノ間柄見ルニ忍ヒス故ニ彼等ヲ補助スル爲メ同居スルハ情誼上止ヲ得サル事實ニシテ被告ハ斷シテ町村制第七條ノ要件ヲ具備シ居ルモノト確信スト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ

本件原被告所争ノ要點ハ被告吉原彌兵衛ハ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘト云ヘル要件ヲ具フルモノナルヤ否ニアリトス而シテ被告ニ於テハ幼ニシテ父母ヲ失ヒタルヨリ其叔父吉原彌兵衛ノ家ニ在リテ養育ヲ受ケタリシモ成長ノ後其家ニ同居シアルハ叔父吉原彌藏ハ一ノ嗣子ナク且彌藏カ妻ハ病身ナルヨリ叔父カ家事ヲ補助スル爲メニシテ自己獨立ノ業ヲ營ム獨立ノ生計ヲ營ムヲ得ルノ能力アルハ被告ハ明治十九年以來茶業

組合ノ組長及蠶業組合幹事ニ當選シ其他公務ヲ奉シタルト一戸主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ來ルヲ以テ知ルヲ得ヘク其戸數割戸別割ヲ納メサレハ明治十七年以來本縣規則ノ然ラシムル所ナリト云フト雖被告ハ幼時叔父吉原彌藏ノ家ニ於テ養育ヲ受ケタル以來依然共居同爨シ獨立ノ事實ヲ表明スルモノ無之ニ依リ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘタルモノト認ムルヲ得ヌ故ニ被告ハ公民權ヲ有セサルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告村長カ被告ヲ公民權ナシトシタルハ不當ノ處置ニアラストス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

明治二十四年六月四日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第七條 (本章第一ノ(參照)ニ出ツ)

第十八條 (本章第六ノ(參照)ニ出ツ)

第三十七條 (八章第二ノ參照)三出ツ

(八) 村會議員選舉不當ノ件

違法と申立つる事實明確ならず各選舉に於て規定に従ひ自身に選舉を了りたる
上は其選舉は無効なりと謂ふを得ず
選舉掛定員中一時闕席したる者あるの故を以て其選舉を取消すと得べきものに
あらず

無資格者か選舉場に入りたりとの申立を爲すときは其證を舉げざるへからず

○明治二十四年第十號

裁判宣告書

鹿兒島縣薩摩國谿山郡谷山村士族農田中彦

七外二十二名總代兼同縣同郡同村下福

元六十二番地平民農

原告

福地順助

外五名

鹿兒島縣薩摩國谿山郡谷山村村長

被告

伊知地季治

右原告福地順助外五名ヨリ被告伊知地季治ニ對スル村會議員選舉不當ノ訴遂審理處

原告陳述ノ要旨ニ去ル明治二十二年四月二十三日二十四日兩日ニ執行シタル谷山村

會議員ノ選舉ハ不當ナルモノニシテ第一明治二十三年四月十八日午後第一時元戸長

役場用掛山下兼斌ハ谷山村大字松崎百四十一番戸是技助太郎宅ニ出張ノ上同所住川

島淺右衛門ヲ招集シ議員選舉ノ事ニ干涉シタルハ服務紀律ヲ犯シ執務時間ニ職役ヲ

離レタルノミナラス自由投票ノ權利ヲ抑壓スルモノナリ然ルヲ被告ハ伊地知季治山

下兼斌伊集院兼才是技助太郎カ提出シタル書面ニ依リ選舉ノ事ニ干涉セサルハ明瞭

ナリト云フモ伊地知ハ當時本會ノ掛長山下ハ分會掛長ニシテ其後伊地知ハ村長ニ山

下是技ハ議員ニシテ伊集院ハ當時其不正ヲ唱ヘ訴願ヲ首唱セシモノナレトモ訴願中有給ノ助役選舉セラレタル爲メ訴願ノ連名ヲ脱シタルモノナレハ是等四名ノ書面ハ証トナスニ足ラス第二谷山村大字上福元山毛万限濱新兵衛ナルモノハ選舉人ノ依頼ナキニ投票用紙ニ選舉人名ヲ記載封緘ノ上選舉人入佐直兵衛ヘ差出シタルヲ以テ直兵衛ハ其儘返付シ他ヲ聞キ合タルニ同様ノ所爲アリタル鳥越十依ナルモノカ受納ノ儘選舉場ニ差出サスシテ控置タル投票ニ直兵衛ヨリ証明書相添ヘ差出タルモノ及永里藤左衛門外四名ノ証明及監屋住岩崎英助外二人カ部長ヘ差出タル上申書其他ニ依リ明カナルモノニテ且之ヲ開封スレハ五圓ノ罰金ヲ徴收セラルヘシト云ヒタルハ増田宇右衛門ヨリ差出タル証明書ニ依リ証スルニ足レリ然ルニ被告ハ投票用配布簿ニ選舉人各自カ領收ノ押印ヲ爲シタルヲ以テ右等ノ事明カナリト云フモ上福元銘方限及監屋ノ如キハ選舉會三日以前ニ配布簿ヲ各選舉人ニ示シ檢印致サセ現票ハ開會ノ當日被選人ヲ明記シ封緘ノ上相渡至急會場ヘ投票可致旨嚴達シタルハ相違ナキ事實

ナリトス第三選舉ノ當時選舉用紙ヲ濫用シタル事實アリ則チ谷山村大字五ヶ別府駒走次右衛門其他ノ者ハ元來無筆ナルヲ以テ被選人記載方依頼ノ爲メ元中村瀬戸口喜左衛門方ヘ相越タルニ同所永井慶藏喜左衛門ノ家ニ在リ記名依頼ノ用紙ハ其儘差置豫メ封緘シタルモノト引替ヘ之ヲ以テ選舉會場ヘ差出スヘキ旨ヲ示シタルト元下福元村ノ内選舉人川村助八中窪仙兵衛外數名カ川野豐武ヘ代筆ヲ依頼シ投票ヲ製シタル後小倉重敬ナルモノ來リ此投票ヲ差出セシハ不都合ナルニ付書改ムヘシトテ自身ニ所持シタル投票用紙ニ記シ替ヘタルコト是ナリ第四谷山村大字松崎居住緒方辰五郎カ選舉會場ニ出頭ノ途中同所黒木長左衛門ハ種々ノ口實ヲ述ヘ自身所持ノ投票用紙ヘ隨意ニ被選人名ヲ記載封緘シタル者ヲ辰五郎ニ繰替ヘ渡シタル事實ハ是技權藏ヨリ差出タル証明書ニ依リ明瞭ナリ第五選舉掛定員中出頭前或ハ不在中選舉事務ヲ執行セシハ訴願ノ際村會ヘ差出シタル松田實徳是技良左衛門ノ証明書ニ在ル如クニシテ同制第二十條ニ違背シタルモノナリ第六無資格者選舉場ニ立入ルハ町村第二十

一條ニ禁スル所ナルニ無資格者ニテ立入りタルモノアリ又無資格者ニテ選舉事務ヲ取扱ヒタルアリ而シテ被告ニ於テハ當時用掛古垣與右衛門鬼丸半左衛門ノ兩名カ選舉會場ニ入りタルモ此兩名ハ公民權ヲ有スルモノナリト云フモ兩名ハ本會區域内ノ選舉人ナルカ故ニ分會選舉場中ニ入ルヲ得サルモノトス右ノ通ナルニ依リ該選舉ノ取消ヲ要求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ第一村吏カ服務時間ニ職役ヲ離レ選舉ノ事ニ關シ威權ヲ弄シ選舉ヲ行ハシメタリト云フモ是等ノ事ナキハ村會裁決書中伊地知幸治山下兼斌伊集院兼才是技助太郎カ提出ニ係ル書面ニ明ナリ第二世話人カ選舉人名ヲ記載シタル封緘ノ投票ヲ選舉人ニ配布シタリト云フモ現ニ被告カ保管ニ係ル投票用紙配布簿ニ選舉人各自カ投票用紙領受ノ押印ヲ爲シタルニ依リテ明カナルノミナラス村會裁決書中長倉友之丞竹下胤典等カ提出ニ係ル書面及選舉人各自カ現ニ自ラ選舉場ニ出頭投函シタルニ依リテモ明白ナリトス第三投票用紙ヲ濫用シタリト云フモ一人一

枚ノ外配付シタルコトナク其証ハ一人一票ノ外投函シタルモノナキヲ以テ知ルヲ得ヘシ第四黒木長左衛門ハ緒方辰五郎カ選舉會ニ出頭ノ途中ヲ待受テ自己所持ノ用紙ヲ以テ取替ヘタリト云フト雖モ其事實ハ一時貸借シタルモ其儘返付シタリト云フニ止リ暴行脅迫他ノ權利ヲ妨ケタルニアラス其詳細ハ村會裁決書中黒木長左衛門等カ提出ニ係ル書面ニ依リテ明カナルノミナラス緒方辰五郎カ投票ヲ松元直八等カ脅迫シテ改書シタリトセハ選舉掛ニ向テ相當ノ異議ヲ申立ツ可キニ本人異議ナク投票シタルハ自ラ信スル人ヲ投票シタルニアラスシテ何ソヤ第五選舉掛定員出頭前或ハ不在中事務ヲ執行シタリト云フモ斯ノ如キ事アリトセハ原告總代ナル松田實徳是枝良左衛門ハ當時選舉掛トシテ列席シタルモノナルニ其當時之カ異議ヲ申立スシテ選舉結了後數月ノ後ニ申立ヲ爲スヲ以テモ其事實ニ反スルヲ知ルヲ得ヘシ第六選舉會場ニ無資格者立入タリト云フハ是枝良左衛門ヨリ提出シタル書面ニ依リタルナルヘシ然トモ是又選舉結了後數ヶ月ノ後ニ於テナシタルモノニシテ是枝良左衛門ハ選舉掛

ノ位置ニアリナカテ當時何等ノ異議ヲモ申立サルノミナラス選舉錄ニ名署調印シタルモノナリ假ニ原告ノ言フ如ク當時ノ用係タル古垣與左衛門外一人分會場ニ立入りタルモ同人等ハ公民權ヲ有スルモノナレハ當時選舉ノ効力ニ妨碍ヲ及ホサ、ルモノトス故ニ明治二十二年四月二十三日二十四日ノ兩日ニ執行シタル谷山村會議員ノ選舉ハ正當ニシテ取消スヘキモノニアラスト云フニ在リ

依テ各証據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ戸長役場員カ職務時間ニ職役ヲ離レ人民ヲ招集シテ村會議員選舉ノ事ニ干渉シ又投票用紙被選人名ヲ記載シテ封緘ノ上配付シ又投票用紙ヲ濫用シ及選舉會場ニ出頭ノ途中他人ノ投票ヲ改書シタル等ノ申立ハ其事實明確ナラサルノミナラス各選舉ニ於テ規定ニ從ヒ自身ニ投票ヲ了シタル上ハ其選舉ハ無効ナリト謂フヲ得ス其他原告ハ選舉掛定員中闕席ノ者アルニ拘ハラヌ選舉事務ヲ執行シ又ハ無資格者カ選舉會場ニ入リタリトノ申立ハ其証トナスヘキモノナク且古垣與左衛門一人カ分會場ニアリシコ

トハ原被双方ノ認ムルトコロナルモ右兩人ハ選舉權ヲ有スルモノナルニ依リ町村制第二十一條ニ背キタリト謂フヲ得サルモノトス其他原被告ニ於テ論述スルトコロアリト雖モ緊要ナラサルヲ以テ一々之カ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ

本件谷山村會議員ノ選舉ハ取消スヲ得サルモノトス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治廿四年七月三日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其係長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

(四) 公民權有無ノ件

法律命令に某項を適用すとあるときは其某項の全體を適用するものとす
町村制中公民と稱するは一種にして二種にあらす從て公民權を得たる者は撰舉
權を有するものなり

○明治廿四年第二十九號

裁判宣告書

長野縣比佐久郡岩村田町第六百一番地平民農

原告 秋山清作

長野縣比佐久郡岩村田町第四百三十五番地

平民農岩村田村長

被告 遠藤善九郎

右原告秋山清作ヨリ被告岩村田町長遠藤善九郎ニ對スル公民權ノ有無ニ付知事ノ裁決
ヲ不當トスル訴訟審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ長野縣知事ハ町村制第六十二條第三項ノ規定ニ第五十六條第二項
ヲ適用ストアリ第六十二條第三項中ニ第五十二條第二項中但書ヲハ適用セスノ法文
ナキヲ以テ第五十六條第二項但書トモ收入役ニ適用ス町村會議員ノ選舉ニ參與スル
ノ權アルモノト雖モ第五十六條第二項但書トモ收入役ニ適用スヘキモノニアラス何
トナレハ收入役ハ町村長ノ推薦ヨリ成立シ町村會カ之ヲ選任スルモノニシテ收入役
ニ對シテハ町村制中選任トノミ明記シアリ第五十六條第二項中但書ニハ當選ノミア
リテ選任ノ文字ナシ若シ但書ヲモ適用スヘキモノトセハ當選及選任ニ應シ認可ヲ得
ルトキハ其公民タルノ權利ヲ得トノ明文ナカルヘカラス故ニ假令ヒ第六十二條第三
項ニ第五十六條第二項中但書ハ適用セスト明記セスト雖モ但書中選任ノ文字ナキヲ
以テ之カ收入役ニ適用スヘカラサルハ明カナリ第五十六條第二項中但書ニ云ヘル公
民ノ權利トハ有給町村長及ヒ有給助役ニノミ適用スヘキモノナリ而シテ此ノ公民ノ
權利ハ町村制第七條ニ所謂ル公民權ナルモノト異ナリ假令町村長助役ト雖モ第十二

條ノ本文ニ云ヘル選舉權ヲ許與シタルモノニアラス町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任スルカ爲メ唯其地位ヲ重ク高カラシムル爲メ公民ト云フ權利ノ名義ノミ許與シタルモノニシテ第十三條ニ云ヘル選舉ニ參與スル權利ヲ得有シアルモノニアラス又助役ニ町村長ト同シキ權利ヲ許與セラレタル理由ハ町村ノ故障アルトキ其代理ヲ爲スカ故ナリ以上陳ルカ如ク町村長助役ヌヲ斯ノ如シ然ルニ町村制中年齡ニモ制限ナク幾歳ノ兒童タリトモ町村會カ選任サヘスレハ差支モナクコトニ法律ハ之ヲ收入役ニ許シ置ケリ然ルニ貴重ナル公民權ヲ許與シアルモノト解釋ヲ下スハ適法ノ精神ニアラス故ニ長野縣知事ノ裁決ハ不當ノ裁決ナルヲ以テ本町收入役阿部龜助ヲ本町會議員選舉人名簿中ヨリ除名セラレシコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ハ町村制第六十二條第三項ニ「收入役ハ町村長及助役ヲ兼スルコトヲ得ス其第五十六條第二項(中)ヲ適用ス」其第五十六條第二項ニハ「有給村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タル

ノ權ヲ得」トアリ依テ本町收入役阿部龜助ハ公民權ヲ得有シタルモノトシ選舉人名簿ニ登載シタルナリ然ルニ原告ニ於テハ收入役ハ選任トノミ明記アリテ當選トノ文字ナシ若シ但書ヲ適用スヘキモノナレハ當選及選任ニ應シ云々トアルヘキナリト謂フト雖本條ハ町村長助役ヲ主トセシモノナレハ無論選任ノ文字ヲ用ユルノ要ナシ而シテ收入役ニハ第六十二條第三項ニ依リ本條ヲ適用スルニ至レルモノナリ尤モ當選ト選トハ自他ノ別アルノミナラス一ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ一ハ町村會ニ於テ公票ヲ以テ選任スルモノニシテ何レモ高點者トナリタルトキハ當選ト云ハスシテ何ソヤ若シ之カ但書ヲ適用セサルモノナレハ本項ハ本文ノミヲ適用ストアルヘキナリ又原告ハ町村長助役ト雖モ町村制第十二條ノ本文ニ云ヘル選舉權ヲ許與シタルニアラス唯其地位ヲ重ク高カラシムル爲メ名義ノミヲ許與シタル云々ト謂フト雖モ公民權ハ固ヨリ空位ニシテ行使スルモノニアラサルヲ以テ議員選舉ニ參與スルコトヲ得スト云フヲ得ス故ニ以上陳述ノ理由ニ依リ被告カ阿部龜助ヲ町會議員選

舉人名簿ニ登載セシハ適法ナリト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スル左ノ如シ

原告陳述ノ要點ハ町村制第五十六條第二項中但書ノ規定ハ之ヲ收入役ニ適用スヘキモノニアラス又假令ヒ有給町村長有給助役收入役等公民權ヲ有スルモノナルモ町村制第十二條ノ選舉權ヲ有スルモノニアラスト云フニ在リト雖モ町村制第六十二條第三項ノ規定中單ニ第五十六條第二項ヲ適用ストアリテ其但書ヲ適用セストノ明文ナキノミナラス當選ト云ヒ選任ト云フモ毫モ其意義ニ異ナルトコロナシ又原告ハ第五十六條第二項ノ所謂ル公民權ナルモノハ町村制第七條ノ要件ヲ具備シタル普通公民權ト異ナルモノアリト主張スルモ町村制中二種ニ公民權アルヘキノ理由ナク隨テ町村制第五十六條第二項ニ依リ公民權ヲ得タル收入役ハ同法第十二條ニ規定シタル選舉權ヲ有スルモノトナサ、ルヲ得ス故ニ被告ニ於テ收入役阿部龜助町會議員選舉人名簿ニ登載シタルハ之レヲ不當ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年九月二十五日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第七條 (本章第一ノ參照)ニ出ツ)

第十二條第一項 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラル、者(第八條第三項、第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

第五十六條第二項 有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第六十二條第三項 收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可ラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

(十) 村會議員選舉取消ノ訴ニ係ル妨訴抗辯ノ件

町村會議員撰舉に關す訴訟は撰舉掛長即ち町村長を對手人と爲すべきものとす
故に村長其人に交迭あるも其事務を繼承したる者は被告たるの責務なしと云ふ
を得ず

○明治二十四年第四十三號

裁判宣告書

千葉縣上總國武射郡陸岡村横田千二十五番地

平民農

原告

鎗木徳太郎

外八名

東京市日本橋區濱町二丁目十一番地平民代言人

右訴訟代理人

浦田治平

千葉縣上總國武射郡陸岡村會議長

被告

富谷啓藏

東京市京橋區三十間堀一丁目一番地代言人

右訴訟代理人

板倉中

右原告鎗木徳太郎外八人ヨリ被告富谷啓藏ニ係ル村會議員選舉取消ニ關スル訴ニ對シ
被告代理人ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタリ依テ之ヲ審理スルニ

被告代理人抗辯ノ要旨ハ富谷啓藏ハ本訴選舉會ニ際シ陸岡村助役タリシカ村長事故
アルカ爲メ其代理ヲ爲シタルモ明治廿四年四月十八日ヲ以テ陸岡村會議員并助役ノ
任ヲ辭シ其後原告カ訴訟ヲ提起シタル當時即チ本年八月十三日ニ在テハ毫モ村會並
助役ノ事務ニハ關係セサリシナリ又原告ハ訴願ノ裁決ヲ爲シタル村會議長ヲ相手取
ルトセンガ富谷啓藏ハ原告ノ論旨ヲ賛成シ該選舉ハ有効ト爲シタルニ不服者鎗木日
總ヨリ郡參事會ニ訴願シタル者ニシテ原告ノ利益アル説ヲ取リタルモノヲ被告ト爲
スノ理ナシ富谷啓藏ハ現今村長ノ職ヲ奉スルモ元來本件訴狀記載ノ月日ハ富谷啓藏

カ村長トシテ生レサル以前ニ係レリ而シテ其對手人ヲ追テ訂正セシト云フモ矢張村
會議長ト記シアレハ到底被告ヲ誤ルト云フヘシ然ルヲ今又陸岡村長ト訂正センコト
ヲ請フト云フモ準備書面ノ對手人ヲ誤ル如キハ訂正ヲ許スヘキモノニアラス故ニ本
訴ハ排斥セラレンコトヲ請フト云フニ在リ

原告代理人反駁ノ要旨ハ本訴ハ陸岡村長富谷啓藏ヲ對手人ト爲スヘキヲ村會議長富
谷啓藏ト爲シタルハ誤リナレハ之カ訂正ヲ請フカ爲メ其願書ヲ今茲ニ携帶セリ開延
前ニ呈出スヘキニ其時間ナカリシナリ被告訴狀記載ノ月日即チ八月十三日ハ被告代
理人ノ言フ如ク富谷啓藏ハ元無役タリシモ訂正ヲ爲シタル際ハ既ニ被告ハ村長ニ就
職シタル時ナリ全體本訴ハ陸岡村ノ代表者タル法人ヲ相手取ルモノナレハ當時富谷
啓藏ハ無役中ナリトモ就職ノ今日ニ於テハ被告ノ位置ニ立ツヘキヲ相當トス原告ハ
對手人ヲ改訂スルヲ得スト云フモ民事訴訟法第九十六條第一項ニ依レハ些ノ差支ア
ルヲ視ヌ又町村制第三十九條ニ依ルニ村長村會議長ハ一身分體ナレハ之ヲ訂正スル

モ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニアラス若又訂正願ヲ聽届ラレサルニ於テハ村長ヲ參
加セシメラレンコトヲ請フト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
本件ハ明治二十四年三月十三日陸岡村會議員補缺及増員撰舉ニ起因スルモノナレハ當
時ノ撰舉掛長即チ村長ヲ對手人ト爲スヲ相當ナリトス然ルニ本訴々狀送達前ニ於テ當
時ノ村長ハ已ニ退職シ富谷啓藏就職シテ其事務ヲ繼承シタルモノナレハ富谷啓藏ハ被
告タルノ責務ナシト云フヘカラス故ニ原告カ訴訟訂正ノ申立ニ對シ被告ハ異議ヲ述フ
ルコトヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
被告ノ妨訴抗辯ハ相立タス

此裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

明治廿四年十二月二十六日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(参照)

民事訴訟法

第九十六條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ死亡ト共ニ消滅ス

町村制

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 市町村會ノ議決執行停止ニ關スル事件

(一) 組合村助役退職願ニ關スル處分裁決不當ノ件

町村吏員疾病を以て職を辭するに當り町村會に於て之を拒絶せんと欲せば其事實にあらざることを確信し得べき證據なかるへからず

町村吏員疾病を以て辭職の前後醫師の診斷書の如く鑛泉に浴せず又辭職後營業せし故を以て公務に堪ゆるものと認め並に其診斷書を不正當と認めたる町村會の議決は事實を認識したるものと云ふへし

○明治二十四年第三十號

裁判宣告書

山梨縣北巨摩郡駒井村下條村組合村會議長

原告

古澤 明 雄

山梨縣北巨摩郡下條村二百五十二番戸平民農

被告

小澤 喜左衛門

右原告組合村會議長古澤明雄ヨリ被告小澤喜左衛門ニ對スル組合村助役退職願ニ關スル處分ニ付知事ノ裁決ヲ不當トスルノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ下條村小澤喜左衛門カ明治二十二年八月中駒井村下條村組合會ニ於テ同組合助役ニ選舉セラレ爾來就職昨二十二年十二月ニ至リ病氣ノ趣ヲ以テ助役ノ職ヲ辭セリ當時村長志村喜三郎ハ本年一月八日ヲ以テ辭職理由ノ當否ヲ村會ニ付セリ村會ニ於テハ同人カ退職ノ理由トスル處ハ疾病職ニ堪ヘスト云フト雖其疾病ハ事實職ニ堪ヘサルモノト認メ難キヲ以テ村會ハ町村制第八條第三項ヲ適用シ四箇年

間公民權ヲ停止シ同年期間其負擔スヘキ村税八分ノ一ヲ増課スルノ處分ヲ爲セリ然ルニ被告ハ之ニ服セスシテ同月十二日本郡長ニ訴願シタルニ郡長ハ其訴願ヲ理由アルモノト爲シ同人ノ辭職ニ對スル村會ノ議決ヲ取消シタリ村會ハ之ニ服セス四月十五日ヲ以テ別紙第一號ノ訴願書ヲ本縣知事ニ提出シ五月四日別紙第二號ヲ以テ訴願ノ追申ヲ爲シタルニ同月二十三日別紙第三號ノ如ク北巨摩郡長カ小澤喜左衛門ノ訴願ニ對シ駒井村下條村組合會ノ議決ヲ取消ストノ裁決ヲ與ヘタルハ正當ニシテ取消スヘキ限ニアラスト裁決セリ然レトモ本會ハ該裁決ニ服スル能ハス其理由ハ被告カ辭職届ニ依レハ適々瘡毒病ニ罹リ既ニ廿三年五月末ヨリ該病ヲ發シ同年九月頃ニ至リ治癒致シ候得共云々トアリ然ルニ同人ハ昨年六月十七日付ヲ以テ北巨摩郡役所ニ諸卸賣ノ鑑札ヲ願ヒ同年六月ヨリ八月マテ三ヶ月間ハ役場へ缺勤ノ事由ヲ告ケ爾仲買ヲ以テ行商シタリ其事實ハ別紙第二號訴願書追申書ニ付屬シアル前村長志村喜三郎ノ回答書及別紙第四號北巨摩郡長ノ證明書ニ依リ明カナリ是レニ由テ之ヲ觀レハ

同人ガ辭職ノ理由トスル疾病ニアラサルコト多言ヲ要セサルナリ何トナレハ同人ハ五月末ニ瘡毒病ヲ發シ同九月ニ至リ治癒シタリト云フニモ拘ハラズ發病ノ翌六月十七日ヲ以テ諸賣却ノ鑑札ヲ受ケ爾來專ラ爾仲買商ノ爲メニ諸方ニ奔走セリ而シテ其奔走ノ勞苦ハ壯健者ニアラズノハ堪ヘサル所ナリ故ニ其疾病ヲ以テ真正ノ疾病ナリト認ムルヲ得ス又被告ガ最初辭職届ニ醫師ノ診書ヲ添付シ能ハサル理由ハ同人ハ辭職ヲ爲スニ當リ醫師ニ付職務ニ堪ヘサルノ診斷書ヲ請求シタルニ之ヲ拒絕セラレ止ムヲ得ス辭職届ノミ提出セリト聞ク然ルニ被告ハ當時醫師平賀良庵地行中ナルヲ以テ診斷書ハ追テ添付スル旨村長志村喜三郎ニ告知シ置キタリト云ヒ又本年一月九日診斷書ヲ携帶シ志村喜三郎ニ面會シテ診斷書ノ添付ヲ申請シタリト陳述スルモ志村喜三郎ノ回答書ニ依テ見レハ其告知及診斷書ノ添付ヲ申請シタリト云フハ無根ノ事ナリ而シテ醫師平賀良庵ハ當時在宅シテ他行シタルコトナキハ別紙第六號證明書ニ依リ明カナリ又平賀良庵ノ診斷書ニハ今後醫藥ハ勿論該病ニ効驗アル鑛泉ニ充分浴

スルニ非レハ治癒シ難シトアリ然ルニ同人ハ辭職ノ前後更ニ鑛泉ニ浴シタルコトナシ又其後醫藥ヲ加ヘタルコトナキモ目下壯健ニシテ勞働ノ役ニ從事スルモ更ニ差支ナキハ衆目ノ保証スルトコロナリ故ニ醫師平賀良庵ノ診斷書ハ正當ナル診斷書ニ非ラス以上陳述ノ理由ニ依リ本會カ被告ノ辭職ニ對シ公民權停止及村稅增課ノ處分ヲ爲シタルハ決シテ不當ニアラサルモノト確信ス依テ縣知事ノ下シタル裁決ヲ取消サレノコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ志村喜三郎ノ回答書及別紙第四號ノ二証ヲ提供シ被告ハ梅毒ニ罹レリト稱シナカラ爾仲買ヲ爲シタルハ其疾病ノ職務ニ堪ヘサル程ノモノニ非サルヲ証スト云フト雖被告ノ爾仲買ヲ爲シタルハ六月中旬以後七月マテニシテ疾病ノ再發ハ五月中ナリトノ事實ヲ比照セハ此訴旨ノ充分ナラサルコト明カナリ何トナレハ梅毒病ノ如キハ日夜間斷ナク苦惱スルモノニ非ラスシテ一日若クハ數日ノ間毫モ苦痛ヲ感セサルカ如キコトモアリ其間ニハ或職業ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハナ

リ而シテ被告ハ被告カ云フ如ク壯健ノ者ニ非サレハ堪ヘサル程ノ奔走シテ仲買ヲ營ミタルニアラス加之被告カ退職ヲ願出タルハ遠ク十二月末ニアリ故ニ原告カ云フ如ク果シテ六七月頃ニハ疾病ニ非サリシトスルモ其際ノ疾病ヨリ推測シテ其後殆ト半年ヲ經過シタル十二月頃ニモ又職務ニ堪ヘサル程ノ疾病ニ非ストシタル原告ノ決定ハ毫モ憑據ナキ漫然タル推測ナリ又原告提出ノ志村喜三郎ノ復命書ノ如キハ志村喜三郎ハ當時村長ナリシヲ以テ原告ト利害ヲ共ニスルモノナレハ其証言アリト雖モ何レモ醫師ノ同居者ニモ非サル他人カ其在不在ヲ証言スルモノナレハ何等ノ信憑力ナシ依テ原告ノ訴訟ハ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ説明スル左ノ如シ
原告陳述ノ要點ハ被告カ其辭職届出ノ當時醫師ノ診斷書ヲ添付セス又被告ノ疾病カ事實職ニ堪ヘサルモノト認め難キヲ以テ村會ニ於テ町村制第八條第三項ノ處分ヲ爲シタルハ決シテ不當ノ處分ニ非ラスト云フニ在レトモ凡ソ町村ノ名譽職ニ選舉セラレタル

モノニシテ町村制第八條第二項一ノ理由ニ依リ其職ヲ辭セントスルトキ其理由ノ當否ヲ村會ノ議ニ付スルトキ該議會ニ於テハ辭職届ニ醫師ノ診斷書ヲ添付シアルト否トニ拘ハラズ宜シク先ツ其事實ノ有無及其疾病ノ輕重等充分調査セサルヘカラス而シテ假令疾病ノ實アルモ實際公務ニ堪ヘサルノ疾病ニアラス隨テ辭職ノ理由ナキモノト議決スルニ當リテハ其職ヲ辭セントスルモノハ事實其職ニ堪ユルモノナリト確信シ得可キ証據ナカル可ラス何トナレハ疾病ハ固ト名譽職ヲ退クコトヲ得ルノ一理由ナレハナリ然ルニ原告ハ被告カ其辭職ノ數月前備仲買營業ヲ爲シタルヲ以テ被告ノ疾病ハ公務ニ堪ヘサル程ノ疾病ニテスヲ又被告カ郡長ニ差出シタル醫師ノ診斷書今後醫藥ハ勿論該病ニ効驗アル鑛泉ニ浴スルニ非サレハ治癒シ難シトアルニモ拘ハラズ被告ハ其辭職ノ前後更ニ鑛泉ニ浴シタルコトナキヲ以テ見レハ醫師平賀良庵ノ診斷書ハ正常ナルモノニ非ラスト謂フト雖被告カ備仲買ノ營業ヲ爲シタルコトアルヲ以テ其疾病ハ公務ニ堪ユルモノト認ムルヲ得ヌ又假令被告鑛泉ニ浴シタルコトナシトスルモ之ヲ以テ醫師ノ

診斷書ハ正常ナラサルノ証ト爲スヲ得ヌ故ニ平賀良庵ノ診斷書ハ正常ニシテ被告ノ疾病ハ事實職務ニ堪ヘサルモノト認メサルヲ得サルヲ以テ村會ニ於テ爲シタル議決ハ事實ヲ誤認シタルモノト謂ハサルヲ得ヌ
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
原告ノ請求相立タヌ

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治廿四年十一月一日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(参照)

町村制

第八條第三項 前項ノ理由ナクシテ各譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間担當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負担スヘキ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得

(二) 訴願權爭論ノ件

郡會議員の数は郡制の規定に依り郡會に於て議決し府縣知事の認可を受けて定むべきものなり

町村會に於ては郡會議員の定數に對する撰擧のみを行ふべきものなり

故に町村會に於て郡會議員の配當の當否に論及し之か改正を求むるの方法を議決したるは法律上町會に與へたる權限外に涉るものと謂はざるを得ず

○明治二十四年第四十五號

裁判宣告書

愛知縣額田郡岡崎町會議長

原告 玉置 政治

愛知縣額田郡岡崎長

被告 玉置 政治

同町助役

代理人 岡田 辰次郎

右原告岡崎町長ニ對スル訴願權爭論ノ訴文書ニ就キ遂審理處

原告申立ノ要旨ハ明治二十四年四月七日愛知縣額田郡長針谷重懋ハ第一號證ノ通リ告示第十二號ヲ以テ郡會議員配當ヲ定メタリ依テ岡崎町長ハ郡會議員撰擧ノ爲メ町會議員ヲ召集シタルニ明治二十四年四月十八日右撰擧開會ニ際シ町會ハ額田郡長ノ議員配當告示及町長カ報告シタル議員ノ員數ニ付熟考スルニ岡崎町ハ人口一萬五千有餘ニシテ議員ノ數僅カニ一人他ノ村々ハ人口三千ニ滿タサルニ議員一人又二村ヲ併セ人口五千弱ニシテ議員二人トスルアリ此ノ配當ハ明治二十三年法律第三十六號郡制第五條第二項ノ明文ニ違背シタル配當法ト認メタルヲ以テ其更正ヲ求ムルノ訴願ヲ上級官廳ニ爲サントノ議決ヲ爲シタリ然ルニ岡崎町長ハ町會ノ決議ハ權限ヲ越ヘタリト爲シ明治二十四年四月二十五日ヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ付シタルモ毫モ越權ニ非ストシ前議ヲ更メサリシヲ以テ町長ハ町會カ議決シタル訴願ノ

執行ヲ停止シ尙町村制第六十八條ニ依リ額田郡長ノ裁決ヲ求メタルニ額田郡長ハ權限ヲ越ヘタルモノトノ裁決ヲ與ヘタルニ依リ愛知縣知事ノ裁判ヲ請ヒタルニ知事ハ郡會議員配當ノ當否ニ對シテハ法律勅令ニ於テ訴願ノ方法ナキニ依リ之ガ訴願ハ權限ヲ越ヘタルモノナリトノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ本訴ヲ提起シタルモノニシテ元來町會ハ郡會議員ノ配當ヲ議定シタルニアラス違法ノ配當ヲ受タルニ依リ權利伸張ノ爲メ之カ更正ヲ訴願セント議決シタルニ過キス何故ニ自治體ノ權利得喪ニ係ル事件ヲ議決シタル事柄カ越權ナリトスルヤ假リニ議員配當ノ當否ニ就テハ訴願ノ手續カ法令ニ規定ナキヲ以テ其事柄カ無効ニ屬スルトスルモ之ヲ越權ナリト謂フヲ得ス之ヲ越權ナリトセハ無効ハ越權ナリト云フモノニシテ二者ノ性質ヲ混同スルモノト云フヘシ案スルニ町村制第二百十條第一項ハ上級官廳ノ處分若クハ裁決ニ對スル普通ノ概則ニシテ何等ノ事柄モ之ニ背馳セサル以上ハ訴願ノ權利ヲ有スル規定ニシテ町村制ニハ彼ノ列舉訴願ト此普通訴願トアルハ照然ナリ而シテ同條中町村ノ行政トハ

如何ナル事柄ヲ意味スルヤト云ハ、即チ町村ニ對スル法律命令ノ執行ハ其町村ノ行政ナリト云ハスシテ何トカ云ハソレハ郡會議員配當ノ一事モ亦町村ニ對スル行政ニ外ナラス若シ夫レ本訴ノ訴願ヲ議決シタルハ越權ナリトセンカ町村制中訴願禁止ノ規定ナケレハ其越權ナリヤ否ハ被告ノ職權ニアラスシテ監督官廳ノ職權ニ屬スト云ハサルヲ得サルナリ是ヲ之レ思ハスシテ妄ニ議權ヲ妨止シタルハ不法ナリト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治二十四年四月十八日郡會議員撰舉ノ際ニ於テ町會ハ額田郡長ノ告示シタル郡會議員配當ハ郡制第五條第二項ニ違背シタルモノナルヲ以テ該撰舉ヲ中止シ更ニ適法ノ配當ニ更正セラレノコトヲ訴願セント議決セリ然ルニ訴願ハ法律勅令ニ於テ之ヲ許シタルモノナケレハ町會ニ於テ議決スルヲ得サル所以ヲ辯明スト雖町會ハ之ニ服セスシテ議決シ了レリ依テ被告ハ町村制第六十八條第二項ノ一ニ依リ自己ノ意見ヲ以テ議決ノ執行ヲ停止シ更ニ理由ヲ示シテ再議セシメシニ町會ハ

其前議ヲ更メサリシカハ己ムヲ得ス郡長ニ訴願シテ其裁決ヲ受ケタルニ町會ハ之ニ服セス縣知事ニ訴願シ更ニ裁決ヲ受ケタルニ仍ホ之ニ服セス本訴ヲ提起シタルニ至リシナリ抑訴願ハ法令中ニ規定シタルモノナラサルヘカラス然ルニ原告ハ斯ル場合ニ於テ訴願ヲ禁スルノ法令ナキヲ以テ見レハ一般ノ法理ニ依リ救正ノ訴願ヲ爲シ得ヘシト云フト雖是原告カ法律上有スル權利ニ非スシテ寧ロ立法部ニ對スル企望ニ外ナラス又其企望ヲ達スルニハ必ス其方法ニ依ラサルヘカラス而シテ法文上之カ方法ナキヲ奈何セソヤ又原告ハ郡長カ爲シタル郡會議員配當ハ町會ニ對スル行政事務ノ一部ナレハ即チ郡長ノ爲シタル處分ナリ而シテ郡長ノ處分ニ對シテハ町村制第二百一十條ニ依リ訴願スルコトヲ得ト云ヘリ是頗ル同條ヲ誤解セルモノナリ何ントナレハ制第二百十條ニハ郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決トアリ郡會議員ノ配當ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經ヘキ者ニアラスヤ當時未タ郡會成立セサレハ郡制第八十六條ニ依リ郡長之ヲ擯行スト雖其資格ニ至リテハ行政機關タル郡長ノ處分

ト代議機關タル郡會ノ議決トハ劃然區別アル者トス故ニ町村制第二百十條ニハ據ルヲ得サルモノトス又原告ニ於テハ越權ト無効トヲ混同スルモノナリト云フハ知事ノ裁決ヲ誤認セシモノニ外ナラス即チ町會ガ法令ニ規定セサル訴願ヲ爲サント議決シタルハ越權ニシテ而シテ法令ノ規定セサル訴願ヲ爲サント議決スルモ之ヲ提出スル方法ナク之ヲ受理スル官廳ナシ果シテ然ラハ議決ノ無効タラサルヲ欲スルモ得ソヤ之ヲ要スル郡會議員配當ニ關スル郡會ノ議決若クハ法律ノ解釋ヲ異ニスルヨリ生スル訴願ハ法律勅令中之ヲ許シタルモノニアラス其之ヲ許シタルモノナクシテ之カ訴願ヲ提起センコトヲ議決ス即チ權限ヲ越ヘタルモノト謂ハサルヲ得スト云フニ在リ依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件爭點ノ歸スル所ハ愛知縣額田郡長カ郡制第五條第八十六條ニ依リ縣知事ノ認可ヲ經テ告示ヲ爲シタル郡會議員配當法ニ對シ岡崎町會カ之ヲ不當トシテ訴願セントノ議決ヲ爲シタルハ越權ナリヤ否ニ在リトス抑郡會議員ノ數ハ郡制第五條ニ依リ郡會ニ於

テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ定ムルモノナレハ町會ニ於テハ其議員ノ定數ニ對スル撰舉ノミヲ行フヘキニ町會ニ於テ郡會議員ノ配當ノ當否ニ論及シ之カ改正ヲ求ムルノ方法ヲ議決シタルハ法律上町會ニ與ヘタル權限外ニ涉ルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ被告岡崎町長カ其執行ヲ停止シタルハ不適法ノ處置ニアラス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年十一月二十日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

郡制

第五條第二項 郡會議員ノ數ハ二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フ可シ
町村制

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ担任ス

町村長ノ担任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(後略)

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ議決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分若クハ議決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ議決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ議決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ議決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第三章

市町村稅ノ賦課及市町村有ノ物件使用ニ關スル事件

(一) 聯合町村費賦課ニ關スル不當裁決取消ノ件

行政裁判所出訴期限の猶豫は民事訴訟の規定を適用するものとす

右に依り出訴したる事件に對しては被告答辯を爲すへき責務を有す

裁判宣告書

福島縣岩代國南會津郡檜澤村大字金井澤

三十七番地平民農

原告 室井平藏

同縣同國同郡田島村大字長野七十五番地平民農

代人 渡邊 彰

同縣同國同郡檜澤村村長

被告 兒山 貴一

右原告室井平藏ヨリ被告兒山貴一ニ對スル耶麻外六郡全町村聯合町村費賦課ニ關スル

不當裁判取消ノ訴訟ニ對シ被告ハ出訴期限後提起シタルモノトシ之ヲ抵拒セリ依テ審理ヲ遂ル處

被告人本訴抵拒ノ要旨ハ原告ハ町村制第百二十條第三項ニヨリ出訴シタルモノナリ其成文ニ依レハ裁判書ヲ交付シタルヨリ二十一日以内ニ出訴セサルヲ得ス然ルニ其裁決書ヲ交付セシハ本年九月廿七日ニアリ此日ヨリ廿一日ヲ起算スレハ十月十七日ヲ以テ期限滿了ニ至ル原告カ十月二十四日付ヲ以テ出訴シタルハ期限滿了七日ヲ經過シ法律ヲ與ヘタル出訴ノ期限ヲ失シタルモノナレハ出訴ヲ爲スヲ得サルハ言ヲ待タヌ明治廿三年法律第四十八號行政裁判法第二十二條第二項ハ該法律ニ規定シアル期限ヲ計算スルモノニ適用スル條項ニシテ他ノ法律勅令ニ規定アルモノヲシテ是レニ依ラシム能ハサルニ由リ被告ハ本訴ニ對シ答辯スルノ義務ナシト云フニ在リ原告人辯駁ノ要旨ハ本訴ニ關シ原告カ訴訟權ハ町村制第百二十條第三項ノ規定ニ依リ制限セラル、モ明治廿三年法律第四十八號行政裁判法第二十二條第二項ニ依リ明

治十年第十九號布告第四條第五條第十五條ノ規定ニ遵由シ訴狀提起ノ日限ヲ經過セサルナリ其事實ハ竊ニ福島縣知事ニ訴願シ其裁決書ヲ受ケシハ明治廿三年九月二十七日ニシテ翌九月二十八日ヨリ十月十八日マテ二十一日間ハ町村制第百廿條第三項ニ規定シタル日限ニシテ十月十九日ヨリ十月二十五日マテ七日間ハ原告カ住居地ヨリ行政裁判所ニ至ル距離五十七里ナルヲ以テ八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増シ通計二十八日間ハ原告カ本訴ヲ提起シ得ヘキ期間ニシテ明治二十三年十月二十四日ニ出訴セシハ適法ノ手續ナルヲ以テ原告ハ出訴スルノ權ヲ有セリ依テ被告ハ本件ニ對シ答辯スヘキ義務アリト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スル左ノ如シ
被告ハ原告カ既ニ出訴期限ヲ失シタル訴訟ニ對シ答辯スルノ義務ナシト抗辯スルニ在リト雖抑訴訟提起ノ日限ニ關シテハ行政裁判法第二十二條第二項ニ依リ民事訴訟ノ規定ヲ適用スヘキヲ以テ町村制第百二十條第三項ニ定メタル日限ノ外明治十年第十九號

布告第四條第五條及第十五條ノ規定ニ依リ出訴スルヲ得ヘキモノトス本縣福島縣知事カ原告ニ裁決書ヲ交付シタルハ明治二十三年九月二十七日ニシテ翌日九月二十八日ニ至ル二十一日間ハ町村制規定ノ期限内ニシテ十月十九日ヨリ十月二十五日ニ至ル七日間ハ原告カ住居地ヨリ行政裁判所ニ至ル距離八里毎ニ一日ヲ猶豫シ通シテ二十八日ハ本訴ヲ提起シ得ヘキ法律上ノ期間ニシテ即行政裁判法第二十二條第二項ノ規定ニ適當スルモノナリ

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告カ耶麻外六郡町村聯合町村費賦課ニ關スル不當裁決取消ノ訴訟ニ對シ被告カ答辯ノ義務ナシト云抗辯ハ相立タス依テ原告訴求ノ本案ニ對シ答辯ヲ爲スヘキモノトス但此判決ニ關スル訴訟入費ハ被告ノ負擔トス

明治二十三年十二月九日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

行政裁判法

第二十二條第二項 訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規定ヲ適用ス

明治十年(十月)布告第十九號

控訴上告手續

第四條 地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡シヨリ第七日マテニ(裁判言渡ノ翌日ヨリ數フ)裁判言渡ノ申理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得ヘシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スル場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條 地方裁判所ノ言渡ヨリ二ヶ月(三十日ヲ以テ一月トス)ヲ過クルトキハ控訴スルコトヲ許サズ但シ地方裁判所ヨリ上等裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キトキハ期限二ヶ月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増スヘシ

第十五條 上告ヲ爲サント欲スルモノハ裁判言渡ヨリ二月内ニ上告狀ヲ大審院ニ送付シ而シテ同時被告ニ通知スルコトヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ増ス此定期ヲ過レハ上告スルコトヲ許サズ
上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

- 第一 原告人ノ住所身分氏名
- 第二 被告人アレハ其住所身分氏名
- 第三 被告人ノ住所身分氏名
- 第四 証人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名
- 第五 地方裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及裁判言渡ヲ受ケタル年月日
- 第六 上等裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及裁判言渡ヲ受ケタル年月日
- 上告狀ハ正本一册及ヒ副本五册ヲ差出スヘシ
- 上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ
- 第一 地方裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
- 第二 上等裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫
- 第三 上告狀中ニ憑據トナス書類ノ寫ノ各書類ニ番號ヲ朱書シ編シテ一册ト爲シ又ハ葉數多ニ付編シテ總册ト爲シタル者

右ノ訴狀又ハ答書及ヒ證據ノ書類ノ寫ヲ所持セサル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ簿冊ヲ訟廷ニ取下ケ見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルコトヲ得ヘシ
若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サ、ルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ其旨ヲ上告狀中ニ記載スヘシ

(二) 町村税賦課ニ關スル件

法律命令の正條に除外の成文なきときは其規定したる事件は廣義に解釋すヘキものなり
町村制第九十條に除外の成文なき以上は直接府縣税中の月税日税に附加税を賦課することを得るは當然とす

裁判宣告書

兵庫縣氷上郡佐治村會議長

原告

外島直治郎

同縣同國同村長

被告

外島直治郎

右原告外島直治郎ヨリ被告佐治村長外島直治郎ニ對シ町村税賦課ニ關スル件ヲ審理スルニ

原告訴求ノ要旨ハ被告村長ハ明治二十三年度歲入出豫算表ヲ村會ニ提出シ原案ノ通り評決シタルニ村長ハ其豫算中營業割ハ不均一課税ナルヲ以テ町村制第二百二十七條同第三百十條ニ依リ郡長ノ許可ヲ請ヒタルニ郡長ハ第百條ニ觸ル、ノ嫌ヒアルヲ以テ許可スルノ限リニアラスト指令ヲ爲シタルヲ以テ制第二百二十條同第三百十條ニ依リ兵庫縣知事ニ訴願シタルモ提出ノ期ヲ失シタルモノトシ受理セサルニ依リ村長ハ更ニ地方税ノ月税日税ニ附加スル金高ヲ減殺シテ村會ニ付シタルニ村會ハ均一課税ナルトキハ郡長ノ許可ヲ要セストノ意ヲ以テ地方税雜種税ノ日税月税ニ均一附加税ヲ課スヘシト議決セリ然ルニ被告村長ハ日税月税ヲ附加税トシテ賦課スルハ法律ニ背クモノトシテ議決ノ執行ヲ停止シ郡長ニ訴願シタルニ郡長ハ町村制第百條ハ町村税徵收上ノ規定ニシテ月割ヲ以テ徵收スヘキモノナレハ月税ニテ數月間引續營業ス

ルモノハ之ニ付加税ヲ付加シ得ルモノヶ月内ニ廢業スルモノ及日税ニハ實際付加税ヲ賦課スルヲ得スト裁決シタルニ依リ原告ヨリ更ニ知事ニ訴願シタルニ知事ニ於テ納税義務ノ起ラサル月税及日税ニ對シ付加税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノト裁決シタルハ不服ナレハ議會評決ノ通り執行アラソコトヲ請フト云フニ在リ

右ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ
本訴所争ノ要旨ハ法律上地方税雜種税ノ日税月税ニハ府縣稅ノ付加税ヲ課スルヤ否ノ點ニ在ルヲ以テ町村制第九十條ニ據ルニ付加税ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ付加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トストアリテ府縣稅中ノ月税日税ニ限リ之ヲ除外シタル法文ナキニ依リ直接府縣稅ノ日税月税ヲ課スルモノニハ其付加税ヲモ課スルヲ得ルモノナレハ日税月税ニ付加税ヲ賦課スルコトヲ得スト云フハ法律ノ見解ヲ誤リタルモノニシテ制第百條ハ町村稅徵稅ノ規定ニ係ルモノナレハ町村稅ノ賦課ニ對シテハ之ヲ適用スルヲ得ス故ニ被告村長ハ村會ノ議決ヲ停止スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ
被告カ村會ノ議決ヲ停止シタルハ其當ヲ失フモノトス
訴訟入費ハ被告ノ負擔トス

明治二十三年十二月二十四日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス
特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

第百二十條 (本章第一ノ(參照)ニ出ツ)

第百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(抄出)

七 均一ノ稅率ニ據ラズシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

第三百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フヘシ

(三) 附加稅取消要求ノ件

五箇年間一定の漁業稅を以て免許を得たる營業といへども本稅地方稅なるときは町村制の規定に依り其附加稅として町村稅を賦課することを得へし

○明治廿四年第一號

裁判宣告書

巖手縣陸中國東閉伊郡鉏ヶ崎町字上町

五番戶平民漁業

原告 篠民三

東京日本橋區本町二丁目一番地

代理人 昆田文次郎

巖手縣陸中國東閉伊郡津輕石村村長

被告 佐々木順

右原告人篠民三ヨリ被告佐々木順ニ對スル附加稅取消要求ノ件遂審理處

原告人陳述ノ要旨ハ巖手縣陸中國東閉伊郡津輕石村地内字丸長鮭留漁場ハ明治廿年三月縣令第二十七號漁業採獲稅則ニ依リ年限ヲ五ヶ年トシ第一號証ノ如ク免許ヲ得營業シ來リシガ明治廿二年四月同縣ニ於テ町村制ヲ實施セラレタルニ依リ被告ハ同制第九十條ニ依リ二十二年度地方稅即チ縣稅ノ附加稅ヲ課シタリシモ原告ハ既ニ五箇年間一定ノ稅額ヲ以テ免許ヲ得タル營業ナレハ之ニ附加稅ヲ課シ得ヘキ者ニ非ス抑商工業ノ如キハ期間一箇年ナルヲ以テ其賦課稅額ヲ了知シタル後從事スルモ木件漁業ノ如キハ之ニ異ナリ五箇年間ノ稅額ヲ入札法ヲ以テ確定シ營業スル者ニシテ免許ヲ得タル當時ハ附加稅ヲ賦課セザルニ依リ其輕重緩苛ハ之ヲ知ルニ由ナク且該村會ハ獵ニ營業者ニ苛重ノ賦課ヲ爲シ廢業ノ極ニ至ラシムルモ之ヲ願ミサルノミナラス元來河海ハ國ニ屬スルモノナルヲ以テ縣稅ヲ課シ得ヘキモ町村稅トシテ附加稅ヲ

課シタルハ彼是以テ不當ナルニ依リ之カ取消ヲ要求スト云フニ在リ
 被告人陳述ノ要旨ハ原告カ東閉伊郡津輕石川大字丸長鮭留漁場ハ五箇
 年間一定ノ稅額アルニ拘ラス更ニ町村稅トシテ附加稅ヲ課シタルハ不當ナリト云フニ
 在リト雖元來巖手縣ニ於テ漁ヲ期間ヲ五箇年以内ト定ムルモ官民ノ便宜ヲ圖リ漁業
 者ノ都合ニ依リ毎年隨意休業シ得ルハ原告カ要領トスル明治二十年三月縣令第二十
 七號二十條ニ明文アリテ其五箇年ノ免許ト云フモ其實一箇年ノ營業ト異ナルコトナ
 ク即チ原告カ提出スル第一號証ニモ一箇年ノ稅額ヲ記載シ之アリ且村會ハ苛重ノ賦
 課ヲ爲シタリト陳述スレド從來同村ノ費用十中七八ハ津輕石川鮭留漁場ノ負擔シタ
 ルハ數百年來ノ習慣ナリ而シテ維新以降郡區改正ノ爲メ費用專ラ地方稅ノ支辨ニ屬
 シ其後村吏ノ俸給等同村ノ費用ニ屬スコトアリト雖其額僅少ナルヲ以テ其際ニ於テ
 之ヲ徵セサリシカ町村制實施後ハ全部ノ費用舉テ一村ノ負擔ニ歸スルヲ以テ更ニ町
 村稅トシテ附加稅ヲ課シタルハ勢ノ免レサル所ニシテ既ニ戶別割ノ如キハ縣稅百分

ノ四百五十四ニ當ル高額ニ達セシモ營業割ニ至テハ僅僅百分ノ五ヲ課シタルハ村會
 カ諸營業ヲ保護スルノ厚キニ出ルモノニテ之ヲ苛重ト云フヲ得ヘケンヤ其他事實ト
 條理ハ知事郡長ノ裁決ニ存在シテ決シテ此附加稅ヲ課シタルハ不當ニ非スト云フニ
 在リ

依テ證據書類ヲ閱シ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スルコト左ノ如シ

原告カ東閉伊郡津輕石川鮭留漁場ニ附加稅ヲ課シタルハ不當ナリト陳述スレトモ抑本
 訴漁業稅ハ素營業雜種稅規則第二條ニ依リ政府ノ裁可ヲ經タル地方稅中ノ雜種稅ニシ
 明治二十年以降原告ニ於テ地方稅トシテ納稅シ來ル者ナレハ町村制實施後同制第九十
 條ニ依リ被告ニ於テ之カ附加稅トシテ町村稅ヲ原告ニ課シタルハ不當ノ處置ニアラス
 其他被告ニ於テ互ニ陳述スル所アリト雖本訴ノ主要ニ非サルヲ以テ一々説明ヲ與ヘス
 右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告カ附加稅取消要求ノ申立ハ相立サルモノトス

但訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年三月三日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(参照)

町村制

第九十條 (本章第二ノ(参照)ニ出ツ)

營業稅雜種稅規則

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(抄出)

漁業採藻ノ類

但漁稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモ
ノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大臣兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

(四) 村稅ノ賦課取消要求ノ件

共同漁場ハ町村有ノ漁場ト異ナリ即ち一箇人ノ漁場なるを以テ當然府縣稅ノ附加稅を賦課することを得ヘシ

○明治二十三年第三十五號

裁判宣告書

巖手縣東閉伊郡(山田町船越村織笠村大澤村)

組合主擔同縣同郡山田町々長

原告人

中野健次郎

同縣同郡船越村村長

被告人

山崎忠藏

右原告人中野健次郎ヨリ被告人山崎忠藏ニ對スル村稅ノ賦課取消要求ノ件審理ヲ遂クル處

原告人陳述ノ要旨ハ被告巖手縣東閉伊郡船越村カ原告山田町外三箇村組合共同稼業ニ係ル明治二十二年度漁業稅ニ村稅ヲ賦課シタルハ不當ナリ何トナレハ本訴共同漁場ハ組合町村ノ規約ニ依リ入札法ヲ以テ落札人ヨリ受負金ヲ徵シ下稼ヲ爲サシメ其純益金ヲ以テ毎年組合町村ノ町村費ニ充ツル者ニシテ約言スレハ組合町村下稼人ヨリ縣稅ノ増加ヲ徵收シタル事實ナリ而シテ船越村ハ組合町村ノ一ニシテ之ニ村稅ヲ

賦課シタルハ重複ノ課税ナレハナリ元來町村税トシテ賦課スヘキモノハ國稅府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村全部ヨリ徵收スヘキニ船越村ハ縣稅中漁業稅附加稅ハ自村受漁業場ヲ除キ賦課セス他ノ漁業場ニノミ賦課シタルハ稅法ノ原理ニ協ハス町村制第九十條ニ背戾シタルナリ而シテ本縣知事ノ裁決ハ村受漁場ハ其村公共ノ財產ト見做シ得ラル、以上ハ其財產ヨリ起ル漁業稅ニ對シ自村ノ稅斂ヲ賦課スルノ必要ナシト雖數町村共有ノ財產ヨリ生スル漁業稅ニ對シ村稅ヲ賦課シタルハ不當ニアラスト云フモ山田町外三箇村カ有スル公共ノ漁場ハ直接ニ經營スル所ニ係ルハ船越村受業場ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ其定義モ亦同一ニ歸スルノ必要ナキコト勿論ナリ又裁決ハ假令船越村カ共同組合ノ町村ノ一ナルモ數町村カ共同作爲セル組合ハ單獨ナル船越村トノ關係ナレハ其徵稅權利納稅義務ノ界限ニ於テハ判然トシテ惑フ所ナシト云フモ共同漁場ノ公共事務ハ制第百十六條第一項ニ依リ山田町外三箇村ハ平等ノ權義ヲ有シ船越村モ其一ニ居リ共同事務ヲ處分シ利害ヲ共通スルモノナレハ自

己ノ漁場ニ對シテハ單獨ナルモ共通物件ニ對シテハ單獨ノ地位ヲ有セサレハ從テ船越村ハ共同漁場ニ村稅ヲ賦課スルノ特權ナシ又裁決ハ古來ノ慣行ニ依リ船越村ノ所屬ト認定セラレタル漁場ニ於テ利ヲ營ムモノ即チ船越村ニ於テ利益ヲ得ルモノナレハ云々トアレトモ本訴共同漁場ハ山田町外三箇村固有ノ所屬ニシテ他村ノ喙ヲ容ル、所ニアラス若亦共同漁場カ船越村地内ノ名冠アルカ爲メ彼レカ爲メ彼レニ課稅ノ特權アリト云ハ、誤謬ノ管見ト云フヘシ依テ本訴ニ於テ船越村ノ賦課ヲ取消シ平等ノ權義ヲ保持シタシト云フニ在リ

被告人陳述ノ要旨ハ吾船越村ノ地タル突出シタル半島ニシテ其沿岸ヲ區劃シ漁場ト爲シ南ハ多ク夏鮎建網漁場ニシテ北ハ多ク秋鮎建網漁場ナリ或ハ一箇人ノ稼業ニ係リ或ハ一村村受ノ稼業ニ係リ或ハ數町村ノ共同稼業ニ係ルモノアリ皆各縣稅アリ本訴共同漁場ハ北岸ノ秋鮎建網漁場ニシテ從來船越村區域内ニ屬シ其漁業縣稅ノ如キモ亦素ヨリ船越村ノ管理ニ屬セリ且該漁場ハ從前船越村人民ノ發見シタルモノニシ

テ組合町村カ殊更ニ共同作爲シタルモノニ非ス其組合ハ古來ノ慣例ニ依リタルモノニ非スシテ明治十四年ノ頃ヨリ共同稼業ト爲シ年年其純益ヲ配當セリ故ニ該漁業ノ組合ヲ爲シタルハ其目的單ニ純益ヲ配當スルニ在リ其稼業ハ必シモ町村ノ組合ニ非サレハ成立スル能ハサルモノニ非ス組合町村ノ分離共同ハ以テ其事業ニ消長ヲ及ホスモノニ非ス故ニ名ハ組合町村ノ共同漁業ナルモ其性質全ク一箇人ノ稼業ト異ナルコト無シ原告ハ一村々受漁業ト其關係同一ナリト爲シ以テ免稅ノ理由トスルモ一村受漁業ハ一村有ノ財産ニシテ自村ノ村稅ヲ徵スヘキモノニアラサルハ勿論共同漁業トハ彼我何等ノ關係ヲモ有セス故ニ課稅ニ對シテモ亦何等ノ關係ヲ有セサルナリ抑共同稼業ノ漁場ハ船越村ニ於テ利ヲ營ムハ爭フヘカラサル事實ナレハ其榮利漁業ハ他ノ一箇人カ船越村ニ於テ營利漁業ト異ナルヲ無シ故ニ假令船越村カ組合ノ一ニシテ共同漁業ノ加入者ナルモ其管理ト課稅ノ限界ニ至リテハ吾船越村ハ單獨ノ地位ニ立チ以テ組合町村モ他ノ町村若クハ一箇人ト同一ノ規定ヲ適用セサルヲ得ス且課

稅ノ權利ハ漁場ノ所屬ニ因テ生レタルモノナレハ組合漁業ノ純益ヲ配當スルト否トハ以テ課稅ノ權利ヲ毀損スル能ハサルモノナリ故ニ組合ニ依リテ純益ヲ配當スルハ規約ヲ履行スルナリ漁場ノ所屬ニ依テ徵收スルハ法律ヲ執行スルナリ蓋シ純益金ハ年年其收入ノ多寡ニ從ヒ戸數ニ準シテ配當スルモノニシテ稅ノ性質ナキハ勿論附加稅ト純益金トハ其區別判然感フ所無シ依テ原告ノ請求ニ應難シト云フニ在リ依テ證據書類ヲ閱シ雙方ノ辯論ヲ聞キ説明スル左ノ如シ

原告ハ本訴村稅ヲ賦課セラレタル共同漁場ハ山田町船越村大澤村組合共同稼業場ニシテ其關係ハ船越村村受漁場ト毫モ異ナル所無キニ被告船越村カ明治廿二年度漁業稅附加村稅自村村受漁場ニ賦課セス而シテ山田町外三箇村組合共同漁場ニ賦課シタルハ不當ナリト謂フト雖原告第一號證訴願書ニ地元ナル船越村ハ組合村ノ一ニシテ云云トアリテ本訴共同漁場ノ船越村所屬タルハ原告ノ自認スル所ナルノミナラス其地方稅中雜種稅タル漁業稅ノ如キモ亦組合町村ノ名義ヲ以テセス船越村ノ管理ニ屬シ且共同組

合ハ單ニ漁業營利ヲ目的トスルニ在リト云ヘハ假令船越村ガ共同組合町村ノ一ニ居ルモ其組合漁業ハ猶他ノ一部人民ノ組合漁業ト異ナル所無キモノナレハ本訴共同漁場ハ船越村カ其區域内ニ於タル自村村受漁場ト其關係全ク同一ノモノト謂フヲ得ス故ニ被告船越村村長カ自村村受漁場ニ村稅ヲ賦課シタルハ不當ノ處分ニアラス其他必要ト認メサルモノハ之カ説明ヲ與ヘス
右ノ理由ニ依リ到決スル左ノ如シ
原告ノ請求相立タス

訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年三月二十四日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第九十條 (本章第二ノ(參照)ニ出ツ)

第百十六條第一項 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合

ヲ設クルコトヲ得

第四章 市町村吏員懲戒處分ニ關スル定件

(一) 懲戒處分不當取消ノ件

郡長は行政事務に就て町村長を指揮するの職權なり其指揮に應せざる者に對し懲戒處分を爲したるは不當にあらず

裁判宣告書

巖手縣紫波郡日結町平民

原告 關 德次郎

同縣盛岡市三番町十番戸士族

代人 本 堂 直 治

巖手縣知事

被告 石 井 省 一 郎

同縣屬

代人

野間

要

右原告關德次郎ヨリ被告巖手縣知事ニ對スル懲戒處分不當取消ノ訴訟審理ヲ遂ル處
 原告代人陳述ノ要旨ハ巖手縣南巖手北巖手紫波郡長宮部謙吉ハ府縣會議員選舉規則第
 十六條ニ依リ原告提供第三號証ノ如ク其管内ニ告示ヲ爲シタリ而シテ其後郡長宮部謙吉
 ニ於テ原告提供第四號証ノ如ク前ノ告示ヲ變更シ正誤ノ名ヲ以テ原告ニ其揭示ヲ命シ
 タリ然レトモ府縣會議員選舉規則第十六條ノ法文タル前條ノ告示アリタルトキハ郡區
 長ハ前條ノ各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘントアリテ別ニ町村長ニ告示
 ヲ爲サシムルノ明文ナキノミナラス斯ノ如キ事項ハ元來町村長ノ職務ニ屬セサルモノ
 ナリ故ニ原告ハ郡長ノ命ニ應シテ揭示ヲ成サ、リシナリ然ルニ被告ハ町村制第百二十
 八條ニ依リ原告ニ過怠金ヲ科シタルハ不當ノ處分ナルヲ以テ其取消ヲ請求スト云フニ
 在リ

被告答辯ノ要旨ハ府縣會議員選舉規則第十六條ノ告示ハ町村長ノ直ニ爲スヘキ職務
 ニアラサルコト固ヨリ辯ヲ竣タスト雖郡長カ法律規則ノ命スル處ニ依リ又其權内ニ
 於テ發スル告示ハ町村長ニ命シテ之ヲ町村役場ニ揭示セシムルハ從來慣行ノ公告式
 ナリ然ルニ原告カ郡長カ揭示ノ命ニ應セサリシハ不當ノ所爲ナリトス故ニ被告カ原
 告ニ對シテ爲シタル懲戒處分ハ取消スヘキ理由ナシト云フニ在リ
 依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スル左ノ如シ

原告代人陳述ノ要旨ハ原告ニ於テ郡長ノ命ニ依リ其告示ヲ揭示スルノ職務ナシト云フ
 ニ在リト雖モ抑郡長ノ職權ニ關シテハ地方官々制第四十七條ニ依リ郡長ハ行政事務ニ
 就テハ其部内町村ノ町村長ヲ指揮スルコトヲ得ルモノナレハ町長タル原告ニ於テ郡長
 宮部謙吉ノ發シタル町村役場ニ揭示スヘキノ命令ニ應スヘキハ當然其職務ナリトス又
 タ原告ハ府縣會議員選舉規則第十六條ニ依レハ町村長ヲシテ告示ヲ爲サシムトノ明文
 ナシト云フト雖モ該條ハ單ニ郡長ノ職務ヲ規定シタルモノニ止リ之ヲ以テ原告カ揭示

ヲ爲スノ義務ナシト云フヲ得ス故ニ被告ノ懲戒處分ハ取消スヘキ理由ナキモノトス
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年一月二十九日行政裁判所公庭ニ於テ宣告ス

(参照)

府縣會議員選舉規則

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日選舉開會並ニ投票函封鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補選員ノ均撰ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票函封鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條

前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

地方官官制

第四十七條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ町村長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

町村制

第二百二十八條

府縣知事郡長ハ町村長、助役、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ罷責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ拾圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ貳拾五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ロ又ハ其情狀ノ重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得(キ者ハ第六十七條)懲戒裁判ヲ以テズルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決スル裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

(二) 懲戒裁判解職言渡取消ノ件

町村吏員にして職務舉らざる事實あるときは町村制の規定に依り懲戒裁判を以

て其職を解くことを得

町村制第百三十條及同制第百二十八條第二項第四に依り爲したる懲戒裁判は適法のものなり

○明治二十四年第二號

裁判宣告書

静岡縣遠江國長上郡美島村々長

原告 小野 練 造

同縣長上敷知濱名郡長

被告 青 沼 沃

右原告村長小野練造ヨリ被告郡長青沼沃ニ係ル懲戒裁判言渡取消ノ訴訟遂審理處

原告陳述ノ要旨ハ被告ハ原告ニ於テ第一明治二十三年度地方稅營業雜種稅各個人ノ等級ヲ同年四月三十日限リ村會ノ議ニ付スヘキ筈ナルニ期日内會議ヲ開カサリシ事

第二二十三年度地方稅半期戸數割及營業割稅ノ徵稅傳令書ヲ納期限ヲ過クルモ發セ
ス又營業割稅ノ如キハ收入簿モ整理ナク何レモ仍未收入ナル事第三二十三年春季種
痘ノ手續ヲ行ハサリシ事第四二十二年豫算表ニナキ平貴役塲稅儀金及ヒ二十三年
度使用ノ雇入費ヲ二十二年度歲入金ヨリ村會ノ認定議決ヲ經ス假出シタル事第五尋
常師範學校教員へ俸給ヲ支給セス爲メニ一時閉校ニ至ラシメタル事第六二十三年度
ノ村歲入出豫算ヲ制期限内會議ニ付セス隨テ報告セサルコト第七二十三年度第一期
地租ノ徵稅傳令書ヲ其期限内八月ニ至ルモ發セサルコト第八二十二年度ノ村稅徵收
結了セス隨テ同年度收支決算ノ手續ヲ盡サ、ル事第九名寄帳田方修正ニ付訂正スヘ
キノ處不整ナル事第十本郡吏員出張ノトキ及部内人民出頭ノトキ役塲ニ事務員ノ詰
合ナク公務處辨ニ差支アリシコト第十一二十二年七月ヨリ翌年三月マテ九ヶ月分ノ
村稅豫算ニ於テ前三ヶ月分ヲ差引計算セス二十二年九月及二十三年五月マテニ於テ
大字高畑河合喜代次郎外七百七十名ヨリ滿制限ノ地租割稅ヲ徵收シ而シテ廿二年四

月ヨリ六月マテ三ヶ月分假徴收ノ地租割金二十三年三月一日ニ至リ更正シタルニ拘ラス未タ割戻ヲ爲サ、ル事アリシトノ理由ヲ以テ懲戒裁判ヲ開キ村長ノ職ヲ解キタリ然レトモ第一第二第三第五第六第九ノ事ハ麥作凶荒ニ付地方税延納出願及村内苦情訴願等アリテ村税ヲ不納スル者多ク爲メニ行政機關ノ運轉ヲ妨害シタルニ由リ第四ノ事ハ臨時急施ヲ要シタルニ由ル又第十ノ事ハ一日タリトモ吏員ノ詰合ナキコトアラサリシヲ以テ公務處辨ニ差支ヲ生セシメタルコトナク第十ノ事ハ假議決假徴收ナレハ通算スルノ必要ナク且二十三年三月一日村會ニ於テ更正議決ヲ爲シタレハ原告ハ職務舉ヲサルニ非ス又責任ヲ盡サ、ルニ非ス加フルニ町村制第二百二十八條ノ懲戒處分ハ譴責及過怠金ニ止マルヘク第一官吏懲戒例ヲ適用セントスルモ決シテ輒ク行フヘカラサルモノナリ故ニ懲戒裁判言渡ノ取消ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告陳述ノ第一第二第三第四第五第六第七第八第十一ノ事ニ付テハ各々法律命令ノ在ルアリテ其範圍ヲ超越スヘカラサルニ地方税延納出願及村内苦情訴願等ヲ口實トシテ其職務ヲ執行セサリシハ全ク原告ノ怠慢ナリ又第九ノ事ハ自身病氣ニテ缺勤スルコトアルモ附屬吏員ヲ統督スルノ責任アル以上ハ公務ニ差支ナキ様計畫スヘク第十ノ事ニ付テハ原告ハ第十一號及第十二號ヲ以テ立證スルモ第十號上申書ハ被告ニ於テ受理シタルコトナク而シテ第十二號ハ出勤簿ノ寫ナリト云フモ証第四號第五號第六號ノ如ク白晝役場ヲ閉鎖シ執務ノ時間ニ於テ吏員ノ結合ナカリシコトハ爭フヘカラサルハ証跡ニシテ畢竟村長始メ附屬員ニ何等ノ申聞ケモ爲サス他出スルカ如キハ不規律ヨリスク公務ニ差支ヲ惹起スルモノニテ出勤簿ニ捺印アルモ現ニ登場シテ執務セサルモノハ出勤シタリト云フ得サルナリ又原告ハ町村制第二百二十八條ノ懲戒處分ハ譴責及過怠金ニ止マリ其外ニ出テスト云ハ、制文ヲ誤解シタルモノニテ被告ハ町村制第三百十條ニ依リ郡參事會ノ權限ヲ以テ第二百二十八條第三第四ノ明文ニ基キ懲戒裁判ヲ開キ原告カ過失ヲ審問シ反復叮嚀之ヲ考量スルニ原告ノ所爲ハ同條第三規定ノ通り職務舉ヲス且職務ニ違フコト再三ニ及フトノ範圍

ニ恰當シ町村制第六十八條第六十九條ノ職務ヲ全フセサルコトハ原告ノ自白スル所ニシテ証第二十七號第二十八號審問口供書及第二十九號第三十號第三十一號附屬書類ノ如シ因テ解職ノ言渡ヲ爲シタルモノナリ故ニ被告カ原告ニ對シテ爲シタル懲戒處分取消スヘキ理由ナシト云フニ在リ

依テ各証據書類ヲ閱シ雙方ノ辯論ヲ聽キ説明スル左ノ如シ

原告カ被告ノ懲戒處分ニ對シ不服ヲ唱フルノ要點ハ地方稅延納出願及村內苦情訴願自分疾病等ノ爲其職ヲ全スルコト能ハサリシト云フニ在リト雖モ抑モ村長ノ職ニ當ルモノハ何等ノ事情アリテ村治上ニ困難ヲ見ルコトアルモ法律命令ノ範圍ヲ守リ其職務ヲ盡サ、ルヘカヲサルハ固ヨリ當然ノコトナレハ既ニ職務舉ラサルノ事實アル以上ハ原告ハ其責ヲ免カル、コト能ハサルモノトス又原告ハ町村制第二百十條ノ懲戒處分ハ譴責及過怠金ニ止マルヘク萬一官吏懲戒例ヲ適用スルヲ得ヘシトスルモ輒ク其處分ヲ行フヘキモノニ非ラスト云フモ被告ハ同制第三百十條ニ依リ郡參事會ノ資格ヲ以テ第二百

十八條第四ノ懲戒裁判ヲ開キ反覆審問ヲ爲シタル上同條第三ノ所爲アリト裁決シ村長ノ職ヲ解キタルモノナレハ即チ同制ノ適用ヲ誤マリタルモノニ非ス故ニ被告ノ爲シタル懲戒處分ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年四月二十一日行政裁判所ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ担任ス

町村長ノ担任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ其

權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 町村ノ設置ニ係ル造管物ヲ管理スル專若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三 町村ノ廢入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監督スル事

四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事

五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政并府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ヲ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負担トス

第二百二十八條 (本章第一ノ(參照)ニ出ツ)

第百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フヘシ

(三) 懲戒處分取消ノ件

町村制實施の際舊事務結了せざるときは其任に當る者は宜く之を整理せざるべからず然るに之を等閑に附し相當の手續をなさざる者に對して町村制の規定に依り懲戒處分を行ふたるは適法なるを以て取消すべきものにあらず

○明治二十四年第四十六號

裁判宣告書

茨城縣下總國豐田郡竈飼村大字鯨五十番地

平民農元村長

原告

國府田 利兵衛

東京府東京市京橋區加賀町一番地
寄留島根縣士族代言人

訴訟代理人 岸 清 一

茨城縣結城岡田豐田郡長

被告 稻 村 政 良

茨城縣結城岡田豐田郡書記

訴訟代理人 石 井 源 治 郎

右原告元蠶飼村々長國府旧利兵衛ヨリ豊田郡長稻村政良ニ係ル懲戒處分取消ノ訴訟審
理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治二十二年町村制實施ニ際シ茨城縣知事ハ自治體組織ニ必要ノ
爲メ同年三月縣令甲第十二號ヲ發シ從前ノ町村ヲ分合スルト共ニ飛地ハ各所在地ノ
町村ニ編入シ其執行ハ三月三十一日ヨリスルコト、セリ然ルニ豊田郡蠶飼村ハ同郡

玉村ノ地内ニ飛地ヲ有シタルモ該飛地ハ右縣令施行期日内ニ玉村ニ編入ノ處分ヲ受
ケテ依然蠶飼村ノ所屬トナリテ存シ蠶飼村カ公法上ノ權利ヲ執行シ該飛地ハ蠶飼村
ノ村稅ヲ負擔シ蠶飼村ハ該飛地ノ地租ニ依テ同村公民ノ資格ヲ算定セリ加之縣知事
モ亦右飛地ニ對スル徵稅令書ハ今日ニ至ル迄蠶飼村ニ對シ發シ蠶飼村ヨリ右飛地ノ
地租ヲ徵收上納シタル事跡アルニモ拘ハラス被告ハ右縣令ノ執行ヲ名トシ同村長ナ
ル原告ニ右飛地地籍引渡ヲ迫リタルニ原告ノ之ニ應セサリシハ縣知事ノ正當職權ヲ
以テ發シタル命令ニ抵抗シ村長タル職務ヲ盡サ、ル者ナリトシ町村制第百二十八條
ノ懲戒裁判ヲ開キ原告ヲ解職セリ抑縣令甲第十二號ハ町村制實施ニ際シ自治體組織
ニ必要ノ爲メ發シタルモノナレハ同令ヲ以テ達シタル町村區域ノ分合ハ町村制實施
ノ日即チ明治二十二年四月一日以前ニ處分ヲ結了シ得サリシ本件ノ如キハ既ニ其期
日ヲ經過シタルモノナルニ依リ縣令甲第十二號ヲ以テ分合ヲ爲シ得サルノミナラス
舊町村ハ其分合處分ヲ受ケサルマ、自治體ノ資格ヲ享有スルニ至ルヲ以テ該令ヲ之

ニ適用シ得サルハ勿論ナリトス本件ノ事實ハ右ノ如クニシテ該飛地ノ所在地ナル玉村ハ固ヨリ監督官廳ニ於テモ毫モ故障ナク二三ノ年月ヲ經過シタルヲ以テ視レハ該飛地ノ今日猶ホ蠶飼村ノ所屬タル事ハ明瞭ナリ且縣知事モ亦右飛地ノ徵稅令書ハ今日ニ至ル迄蠶飼村ニ對シテ發シ該村ヨリ右飛地ノ地租ヲ徵收上納シタル事迹アルヲ以テ縣知事ハ訴願裁決書ニ此所爲ヲ辯護シ「未タ地所ノ受渡ヲ執行セサルカ故ニ徵稅法ノ則ニ依リ其地籍ノ所在地ニ令書ヲ發シタルニ過キヌ云々」ト云フモ到底自家撞着タルヲ免レスノ該飛地ノ地籍ハ今日猶ホ蠶飼村ニ現存スル事ハ其認ムル所ナラスヤ若シ縣令甲第十二號ノ達ヲ爲シタルノミニテ別ニ各箇ノ飛地ニ對シ組替ノ處分ヲ施サハルモ尙ホ該令執行ノ期日ニ於テ各所在ノ町村ニ自ラ地籍ヲ移スモノトセハ監督官廳並ニ玉村ハ蠶飼村カ玉村ノ地所ニ對シテ公法上ノ權利ヲ執行スルヲ袖手傍觀スヘカラサルノミニナラス徵稅令書ノ如キモ地籍ノ所在地即チ玉村ニ向テ發スヘキハ當然ナリトス而シテ縣知事ハ僅カニ其地所ノ受渡ヲ執行セサルノ一件ヲ以テ自家

撞着ノ讎ヲ免レトスルモ地所ノ受渡ナルモノハ地籍ノ必要ナル要素ニアラサルノミニナラス若シ新村長ニ於テ地所ノ受渡ヲ拒ム事猶ホ舊村長ノ如ク終始際限ナキ時ハ右飛地ニ對シテ蠶飼村ハ終始公法上ノ權利ヲ行ヒ徵稅令書モ亦終始蠶飼村ニ對シテ發スルノ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘシ之ヲ要スルニ縣令甲第十二號ヲ以テ飛地ノ所屬ヲ定メタルモ蠶飼村ノ飛地ハ該令ノ執行期日內ニ組替ノ處分ヲ受ケヌ蠶飼村ノ一部分トシテ町村制ノ實施ヲ受ケタル以上ハ今日ニ於テハ蠶飼村ノ一部ト見做サハルヘカラス故ニ之カ分合ヲ爲サンニハ町村制第四條ニ依ルヘキモノニシテ縣令甲第十二號ハ今日ニ於テ強行シ得ヘキ者ニアラス假リニ一步ヲ讓リテ右飛地ノ地籍ハ既ニ玉村ニ移轉シ了リタル者トスレハ村長ニ於テ地籍ノ移轉ニ關シテ盡スヘキ手續ハ法律上毫モ之レアルコトナシ依テ明治二十四年六月十七日原告村長ヲ解職シタルハ不當ナルニ付是レカ取消ヲ請求スト謂フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治二十二年町村制實施ニ際シ知事ハ縣令甲第十二號ヲ發シ舊町

村ヲ分合シテ新町村ヲ造成スルト共ニ飛地ノ所属ヲ定メタリ故ニ蠶飼村大字鯨ノ飛地モ該令施行ノ日ヲ以テ玉村ノ所属ニ移ルハ勿論ナリトス然レトモ其當時ニ在テハ未タ新村機關ノ組織完成ナラサルヲ以テ一時元戸長ヲシテ便宜新村事務ノ取扱ヲ爲スニ至レリ然ルニ未タ其地籍受渡ノ手續ヲ了ラサル間ニ新村長即チ原告カ就職シタルモノナレハ所謂繼續未滿ノ事務トシテ原告カ繼承處理スルハ固ヨリ當然ノ事柄ナリ然ルニ原告ハ之ヲ等閑ニ附シ去リ其執行ヲ爲カ、ルニ依リ被告ハ監督上屢々之カ執行ヲ促カシ或ハ召喚シテ其執行ヲ命スルコト再三ニ及フト雖モ毎ニ言ヲ左右ニシテ履行セサルノミカ結局縣令甲第十二號達ニ服從スル能サル旨ヲ斷言セリ之レ懲戒裁判ヲ以テ解職シタル所以ナリ原告カ職務ヲ盡サ、リシ事實ハ大畧此ノ如シ然ルニ原告ハ被告カ解職處分ヲ爲シタルハ不當ニシテ原告ノ權利ヲ傷害シタル者トセリ今其所見ニ從フモ町村區域ノ分合ハ三月三十一日ヲ以テ既ニ確定ノモノナルニ依リ之ニ伴隨スル事務ヲ結了カ同日以後ニ涉リシトテ是レカ爲メ縣令ノ効力ヲ滅却シ得ヘ

キモノニアラズ次ニ原告ハ蠶飼村飛地ハ縣令甲第十二號ノ執行期限内ニ組替ノ處分ヲ受ケス依然蠶飼村ノ所属トナリテ存シ公法上ノ權利ヲ執行シ縣知事モ亦該飛地ノ徵稅令書ハ今尙蠶飼村ニ對シテ發スルヲ以テ觀ルモ飛地ノ地籍ハ尙蠶飼村ニ現存スル事ハ知事モ認ムル所ナリト云フニ至テハ殆ント辯明ノ必要ナキヲ信スト雖モ茲ニ一言セサルヘカラス抑モ飛地組替ノ事ニ付之レカ事務ヲ處理スルハ村長其者ノ職務ニアリ故ニ飛地ノ地籍カ今回蠶飼村ニ在ルコトハ畢竟原告カ其職務ヲ盡サ、リシ結果ニアラスヤ然ルニ原告ハ自己ノ責任ヲ願ルナク徒ヲニ附會シテ依然蠶飼村ノ所属ナリトハ不當ノ言ヲ免カレス況ンヤ縣知事カ徵稅令書ヲ蠶飼村ニ對シ發シタルノ故ヲ以テ依然蠶飼村ノ所属ト認メタリト云フヲ得ス如何トナレハ飛地ノ所属ハ業已ニ確定スト雖モ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキ成規ナレハ假令玉村ニ向テ徵稅令書ヲ發スルモ未タ土地臺帳ノ甲乙加除成ヲサル間ハ玉村ニ於テ之ヲ徵收シ得サルハ理ノ最モ親易キ所ナリ故ニ地籍ノ受渡ノ申告ナキ間其徵收ヲ蠶飼村ニ求ムルハ毫

モ失當ノ處置ニアラスト信認ス之ヲ要スルニ原告カ縣令甲第十二號ヲ無効視シ更ニ町村制第四條ニ擔ルヘキモノナリト推論スルハ畢竟町村制第四條ハ該制度ノ實施後始メテ廢置分合ヲ要スル場合ニ適用スヘキモノニシテ其以前ノ處分ニ對シテ毫モ關係ナキヲ了解セサルニ由ルノミ以上ノ理由ニ依リ明治二十四年六月十七日被告カ爲シタル裁決ハ適法ニシテ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノニアラス依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレノコトヲ乞フト謂フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ明治二十二年三月十五日縣令甲第十二號ヲ以テ町村分合及飛地組替ノ事ヲ公布シ之ヲ同月三十一日ヨリ施行ストセリ而シテ其翌四月一日ヨリハ此新區域ニ對シテ町村制ヲ實施スヘキモノナレハ施行期限内即チ三月三十一日ヲ經過スレハ該令ヲ施行シ得サルヘキニ付舊町村ハ從來ノ儘自治體ノ資格ヲ享有スヘキナリ且字鯨飛地ハ今日ニ至ルモ尙蠶飼村ノ村稅ヲ負擔シ縣知事モ亦依然該飛地ニ對スル徵稅令書ハ蠶飼村ニ向

ヲ發シ蠶飼村モ亦該地ノ租稅ヲ徵收上納シタルカ故ニ官廳及蠶飼村ハ共ニ該飛地ハ蠶飼村ノ所屬タルコトヲ認メタルモノナルニ因リ四月一日後ニ在テハ町村制第四條ニ依リ處分ス可キモノナリト云ト雖モ該飛地組替ハ縣令甲第十二號ニ依リ既ニ確定シ唯其殘務タル手續ヲ結了セサルノミナレハ之ヲ以テ町村制實施後ニ生シタル事件ト同視シ同制第四條ヲ適用スヘキモノニアラス要スルニ新法實施ノ際ニ臨ミ舊事務ノ結了セサルニ其儘就職シタル以上ハ該飛地ニ關スル處分ノ殘務ヲ整理セサル可ラス然ルニ之ヲ等閑ニ付シ屢郡長ノ諭示ヲ受クルニモ拘ラス知事カ蠶飼村ニ向テ徵稅令書ヲ發シタルコトヲ牽引シ故ヲニ引渡手續ヲ爲サハルハ命令ニ背戾シタルモノト言ハサルヲ得ス右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

被告郡長カ明治二十四年六月十七日付ヲ以テ町村制第二百二十八條ニ依リ爲シタル原告解職ノ懲戒裁判ハ之ヲ取消ス可キ理由ナキモノトス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年十一月十日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(参照)

町村制

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聽キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聽キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ實力法律上ノ義務ヲ負担スルニ耐ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラヌ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財産處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ
第二百二十八條 (本章第一ノ(参照)ニ出ツ)

第七部郡制ノ規定ニ依リ出訴シタル事件

第一章 郡會議員被選舉ノ有無及選舉ノ効力ニ關スル事件

(一) 不當處分取消ノ件

郡制第二十四條は單に郡會議員中議員の資格を有せざる者あることを發見したる場合にして其選舉の効力に關し異議あるものゝ如きは本條の範圍外とす

○明治二十四年第七十號

裁判宣告書

原告 石川縣珠洲郡會議長石川縣珠洲郡長

被告 國枝 逸 蝶

原告 石川縣珠洲郡長

被告 國枝 逸 蝶

右原告石川縣珠洲郡會議長ヨリ被告石川縣珠洲郡長ニ對スル不當處分取消ノ訴文書ニ就キ遂審理處

原告訴求ノ要旨ハ被告石川縣珠洲郡長國枝逸蟻ハ明治廿四年八月十二日珠洲郡會カ
議決シタル郡會議員米谷作右衛門ハ無資格ナリトノ通知ニ對シ同月三十一日再議ヲ
爲サシメシニ郡長ハ前決議ヲ變セサルニヨリ被告ハ郡制第七十五條ニ依リ縣知事ノ
裁決ヲ請ヒ其裁決ヲ受ケタルニ郡會ハ之ニ服スル能ハス爲メニ本訴ヲ提起スル者ニ
ノ其事實ハ珠洲郡峭島村々會ニ於テ郡會議員ヲ選舉セシニ米谷作右衛門酒尾庸三ノ
兩名高點者トナリ何レモ過半數ヲ得サルヲ以テ其兩名ニ付決選投票ヲ爲スニ當リ米
谷作右衛門ハ同村長及議員ノ職ニアリナカラ自己一身上ノ關係ヲ顧ミス乃議員酒尾
庸三ヲモ退席セシメスシテ共ニ抽籤ニ與リシハ町村制第四十五條ノ規定ニ違背シタ
ル選舉ナルヲ以テ村會ニ於テハ郡制第二十四條ヲ適用シ前記米谷作右衛門ハ議員ノ
資格ナキ者ト議決ヲ爲シタルモノニシテ抑第二十四條議員ノ資格トハ第一被選舉資
格第二當選手續ノ正當第三有効投票多數ノ三要件ヲ指スモノニテ當選手續ノ正否モ
含有セサルモノト言ハサルヲ得ス若シ然ラストセンカ村長兼議員米谷作右衛門ハ決

選投票ニ際シ自己一身ニ關係アルニモ拘ハラヌ尙議席ニ列リ投票ヲ行ヒ違法ヲ以テ
選舉セラレ而シテ之カ不正ヲ匡サント欲スル者不幸ニシテ故障ヲ被リ空シク訴願期
日ヲ經過セシニ依リ米谷作右衛門ノ如キ者ヲモ尙議會ニ參列セシメサルヲ得ス法豈
如此ノ不完備アラシク故ニ郡會ノ議決ハ法律ノ範圍外ニ出テタル者ニアラスト云フニ
在リ

被告管辯ノ要旨ハ原告ニ於テ郡會カ郡制第二十四條ヲ適用シ米谷作右衛門ヲ議員ノ
無資格者ト決議シタルハ法律ノ範圍外ニ涉ル者ナラスト云フト雖郡制第二十四條ハ
同制第九條第十條第十一條ノ議員トナルヲ得ヘキ資格ノ要件ニ缺ク所アルヲ發見シ
タル場合ニ於テ適用スヘキモノニシテ選舉ノ當否ニ關シ之ヲ適用スヘキモノニアラ
ス其選舉ニ關シテハ郡制第二十二條ノ規定アリテ選舉ノ當否ハ議員資格ノ要件ニア
ラサルハ明カナリ況ンヤ郡制第十七條ニハ特ニ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ
トアリテ其他ノ手續ハ議會ノ自由ニ任シタルモノナリ米谷作右衛門ノ選舉ハ該條ヲ

適用シタルモノニテ違法ノ選舉ニ成立タルモノニアラス要スルニ郡會ハ議員ノ資格ト選舉ノ手續トヲ混シ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ
依テ雙方ノ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

郡制第二十四條郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルトヲ發見スルトアル
片ハ單ニ同制第九條乃至第十一條ニ規定シタル郡會議員タルノ要件ヲ具有セサル者ヲ
發見シタル場合ヲ謂フモノニシテ郡會議員ノ選舉ノ效力ニ關シ異議アルモノ、如キハ
右第二十四條ノ範圍ニ入ラサルモノトス故ニ本件石川縣珠洲郡會カ爲シタル議決ニ對
シ被告カ郡制第七十五條ヲ適用シタルハ不當ナリト謂フヲ得サルモノトス
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年十二月十二日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

郡制

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ラ選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ事件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ選舉ニ際ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府(東京府ハ警視廳トモ)縣并其郡ノ官吏

二 郡ノ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ニ官吏ニシテ當選ニ應シ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル

年齢二十歳未満ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪ノ爲

裁判上ノ訊問若ハ拘留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但該町村會々同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ選舉ハ郡長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第二十二條 當選人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十四條 郡會ニ於テ其議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之レヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其ノ權限ヲ越エ又タハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村制

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關ル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此條名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ

過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第八部府縣制ノ規定ニ依リ出訴シタル事件

第一章 府縣會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ニ關スル事件

(一) 縣會議員選舉會違法取消ノ訴ニ係ル妨訴抗辯ノ件

府縣會議員の選舉は郡に在ては郡長を會長と爲すべきは府縣制の命ずる所なり
故に其選舉に關し訴訟あるときは郡長は之に對し答辯すべき責務あるものとす

○明治三十四年第七十六號

被判宣告書

長野縣北佐久郡川邊村三十番地平民農
同縣小縣郡々會議員

原告 柳 澤 禎 三

同縣東筑摩郡筑摩地村平民東京市小石川區
小日向第六天町五十四番地寄留

訴訟代理人 武 居 熊 吉

長野縣小縣郡長 為 被告

被告 中島精一 對 原告 柳澤禎三

長野縣小縣郡書記 為 訴訟代理人

宮崎 通

右原告柳澤禎三ヨリ被告小縣郡長中島精一ニ對スル縣會議員選舉會違法取消ノ訴訟ニ付被告中島精一ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタリ依テ審理ヲ遂クル處

被告妨訴抗辯ノ要旨ハ原告ニ於テ選舉ノ始終ヲ管掌スル實權者ヲ擱キ其事務ニ與リタル中ノ一人ヲ誤認シ被告ノ位置ト定メタルニ甚ク不當ナリ抑原告ノ主眼トスル所ハ選舉ノ結果ヲ無効トスルニアリテ此選舉ノ効力即チ結果ノ異議ニ外オラス而シテ郡長ハ縣知事ノ命スル所ニ依テ法律ノ規定ニ基キ選舉會場一部ノ整理ヲナスニ止リ其結果ハ當選人ノ確定ニ歸ス府縣制ニ據リ議員ノ出生ヲ命ジ及ヒ其出生ヲ認ムル實權ハ府縣知事ノ職務ニ屬スル府縣制第七條以下數條ノ規定スル所ナリ故ニ選舉ノ効

力ニ關シ訴願セントスルモノハ實權者タル府縣知事ニ申立其効力ノ確定ニ異議アルヲ知ラシメ矯正ノ道ヲ求ムルモノニシテ即チ本訴ノ當ノ敵タルヘキモノハ此實權者ニ歸セサルヘカラス之ヲ要スルニ被告郡長ハ實權者ノ地位ニ相當スルモノニアラサルヲ以テ本訴ニ對シ答辯ノ義務ナシト云フニ在リ

原告答辯ノ要旨ハ被告郡長ハ知事ト郡長ノ職權ヲ混同スルモノナリ郡長ハ選舉會長ト爲リ該會ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フヘキハ即チ郡長タル職務ノ一部ナレハ當然被告ハ本案ニ對シ答辯ノ責務アル者ナリト云フニ在リ

右雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ
被告ニ於テ本件ハ選舉ノ効力即チ結果ノ異議ニ外ナラスシテ郡長ハ選舉會場一部ノ整理ヲ爲スニ止リ其ノ結果ハ當選人ノ確定ニ歸スルモノナレハ當ノ敵タルヘキモノハ此ノ實權者ニ歸セサル可ラスト云フト雖モ府縣會議員ノ選舉ハ郡ニ在テハ郡長ヲ會長ト爲ス可キハ府縣制第三條ノ法律ヲ以テ命スル所ナリ而シテ本案原告ノ請求ハ選舉會ニ

違法アリト主張スルモノナレハ其當務者タル會長即チ郡長ニ於テ其責ヲ縣知事ニ讓ル
コトヲ得可カラサルモノトス依テ原告ノ請求ニ對シ被告ニ於テ本案ノ答辯ヲ爲ス可キ
ハ當然ノ責務ナリトス
前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ
被告ノ妨訴抗辯ハ相立タス
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

明治二十四年十二月二十八日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

府縣制

第三條 府縣會議員ノ撰舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會々同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在テハ郡會及郡參事
會々同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハテサルモノトス(後略)

第七條 府縣會議員ノ撰舉ハ府縣知事ヲ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クとも撰舉ノ日ヨリ十四日
前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 撰舉ヲ終リ當撰人ノ定リタルトキハ郡市長ハ直ニ當撰人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當撰人其當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ政官所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘ
シ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當選人其當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ
選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 選舉人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選証書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 當選人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申
立ルコトヲ得

第十二條 當選人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコトヲ發覺スルハ其當撰ヲ無効トス
當選人當選後資格ノ要件ヲ失フハ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルハ其議決ヲ以テ之ヲ府
縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被撰權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス
府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九部日本坑法ノ規定ニ依リ出訴シタル事件

第一章 詐偽錯誤ニ因リ既ニ與ヘタル試掘借區ノ許可取消ニ關スル事件

(一) 銅鑛試掘願指令取消訴訟ニ係ル妨訴抗辯ノ件

明治二十三年法律第百六號第三項は直接に營業其ものゝ免許に關する事件のみに限らず營業上官廳の職權に屬する免許を得されは目的の營業を爲すを得ざるもの如きは其許可を得ざる場合に於ては營業を拒否せられたる實果を生ず故に日本坑法中試掘の許否は坑物採掘營業に關するを以て同項の範圍内にあるものとす然れども日本坑法の規定に依り一旦農商務大臣に申立てされは行政裁判所に出訴することを得ず

○明治二十四年第六十一號

裁判宣告書

石川縣能美郡古河村字道田ト九番地平民農

原告

石田小太郎

石川縣能美郡國造村字和氣千五番地平民無職業

訴訟代理人

北出松翠

農商務大臣

被告

陸奥宗光

農商務參事官

訴訟代理人

原 龜太郎

右原告代理人北出松翠ヨリ被告農商務大臣陸奥宗光ニ對スル銅鑛試掘願ノ指令取消訴訟ニ付被告代理人農商務參事官原龜太郎ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタリ依テ審理ヲ遂クル處被告代理人妨訴抗辯ノ要旨ハ鑛物ノ試掘ナルモノハ其存否ヲ確メシメ爲ス手段ニ過キスシテ之ヲ發見スルモ借區許可ヲ得サル限リハ恣マ、ニ賣却スルヲ得サルナリ故ニ借區許可ヲ得サルマテハ未タ抗業ヲ爲スモノニアラサレハ營業免許ヲ出願ス

ヘキ理由ナク又之ヲ拒否スルノ理由ナシ從テ明治二十三年法律第百六號第三項ニ當該スルモノニアラス況ンヤ試掘ニ因リ發見シタル鑛物モ政府ノ所有ニシテ之ヲ得ントスル借區願モ亦單ニ政府ノ所有物ヲ採取センコトヲ出願スルモノニシテ營業免許ヲ請フニ非サルニ於テオヤ假リニ借區願ト營業願ナリトスルモ試掘願ナルモノハ抗業ヲ爲スヤ否未必ノモノナリ故ニ之ヲ以テ營業ヲ爲スノ出願ト爲スハ全ク試掘ノ性質ニ反ス若シ然ラストセハ同一ノ地ニ對シ二重ノ營業免許ヲ得サレハ抗業ヲ營ムコトヲ得サルモノト云ハサルヲ得ス斯クノ如ク試掘願ハ營業免許ニアラサレハ以テ被告ノ指令ハ錯誤ニ出テタリトセハ日本坑法第十款第五項ニ依リ先ツ訴願人ニ與ヘタル許可ヲ取消サンコトヲ被告ニ訴願シ其裁決ニ不服アルトキハ始メテ訴訟ヲ提起ス可キモノナリ依テ原告ノ請求ハ棄却アリタシト云フニ在リ
原告答辯ノ要旨ハ試掘ト言ヒ借區ト言フモ等シク營業ナルコトハ日本坑法ノ明示スル所ナリ且同法第十項第五項ハ他人ノ得タル許可ヲ取消サントスル場合ヲ規定シタ

ルモノナレハ本案ハ該項ニ依ルヘキモノニ非スシテ明治二十三年法律第百六號第三ニ依ルヘキコト明ナリ故ニ被告ノ妨訴抗辯ハ速ニ排斥シ本案被告ニ於テ原告ノ試掘願ニ對シ時日ノ先後ヲ誤リテ與ヘタル指令ヲ取消シ更ニ原告ノ試掘願ヲ許可スヘキ様裁判アラソコトヲ請フト云フニ在リ

右雙方ノ辨論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ試掘ノ許否ハ明治二十三年法律第百六號第三ニ該當スルモノニアラスト云フト雖モ該法ハ直接ニ營業其モノ、免許ニ關スル事件ノミニ限ラス營業上官廳ノ職權ニ屬スル免許ヲ得サレハ目的ノ營業ヲ爲スヲ得ヘカラサルモノ、如キハ其許可ヲ得サル場合ニ於テハ營業ヲ許否セラレタル實果ヲ生スル者ナルニ依リ本案ノ事實ハ該法ノ範圍内ニ在ル者トス然レトモ原告ニ於テ日本抗法第十款第五項ハ他人ノ許可ヲ取消サントスル場合ヲ規定シタルモノナレハ本案ハ該項ニ依ルヘキモノニ非スト云フト雖モ其事實ニ於テハ同法第五款第二項試掘許可ノ出願時日ニ先後ヲ誤リタリト爲スモノナ

レハ即チ被告ノ錯誤ニ出テタルコトヲ發見セシモノナリト謂ハサルヲ得ス然レハ即チ同法第十款第五項ノ規定ニ依ルヘキハ當然ニシテ其手續ヲ經サル以前ニ於テハ行政訴訟ヲ提起シ得可キモノニアラス
前項ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年十二月二十八日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

明治二十三年(十月)法律第百六號(行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル事件)

三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

日本抗法

第五 試掘ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ試掘願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ
試掘ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル若シ試掘セント欲スル地ノ全部ヲ所有スル者ノ出願ト同地ニ係ル
他人ノ出願ト同時ナルハ其土地所有者ニ許可スルモノトス

第十 借區出願人ハ其出願地ニ於テ採掘セントスル礦物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其証明ヲナス能ハサルトキハ其出願ヲ無効トス
農商務大臣礦物ノ存在ヲ認メス又ハ試掘若ハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルキハ其出願ヲ許可セス試掘若ハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得
試掘人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區ノ許可詐偽又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

(二) 石炭坑借區許可取消請求ニ對スル不當行政處分取消ノ件
改正日本坑法の發布は訴願法の前に在りと雖も日本坑法は特別法なるを以て二
法相違ふときは特別法なる日本坑法の規定に依るべきものとす

○明治二十四年第三十四號

裁判宣告書

佐賀縣肥前國杵島郡大野町村大字大町
百七十二番地主族農

原告 大園重宣

外十一名

東京市神田區猿樂町二十番地平民代理人

右訴訟代理人 角田眞平

外一名

農商務大臣

被告 陸奥宗光

東京市京橋區八官町二十番地寄留

栃木縣平民代理人

右訴訟代理人 星亨

右原告大園重宣外十一名ヨリ被告農商務大臣陸奥宗光ニ掛ル石炭坑借區許可取消請求願ニ對スル不當行政處分取消ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告代理人陳述ノ要旨ハ明治二十四年五月二十三日農商務大臣カ與ヘタル裁決ハ不當ニ付之ヲ取消シ本案ノ裁判ヲ請フモノニシテ被告ハ原告人等ノ競願人村岡致遠中村熊一郎等ノ借區願ニ對スル許可ハ明治二十三年十月二十七日ニシテ取消請求ハ明治二十四年二月二十三日ナレハ訴訟法第八條規定ノ期限ヲ經過シタルモノナルニ依リ本件訴願ヲ受理セスト云フモ日本坑法第十款第五項ハ決シテ訴願法ニ依ルヘキニアラス又其日數ニ制限アラサルニ由リ關係者ニ於テ發見次第請求シ得ラルハ論ナキナリ又被告ニ於テ本案ハ借區ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ民事ノ裁判ヲ受クヘキモノナリト云フト雖日本坑法第十款第六項ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得トアレハ被告大臣ニ取消ヲ求メ若シ其處分ニ不服アルトキハ當法廷ニ於テ爭フヲ得ルハ勿論ナリ被告ハ原告カ被告ノ指示ニ依リ書面ヲ訂正シタルヲ以テ視ルモ本訴ノ出願ハ訴願

法ニ依ルヘキヲ目認シタル者ナリト陳辯スルモ被告ノ指示ハ儀式ニ關スルコト、シテ訂正シタルマテナリ之カ爲メニ訴願法ニ依ルヘキモノト認メタルトスルヲ得ヌ又被告ハ本案ニ立入ヲ得スト抗辨スルモ原告ハ被告大臣ノ裁決ノ爲メ原告ノ素望ヲ達シ能ハサルモノナレハ被告ノ裁決ハ本案ニ關スルハ論ヲ待タス故ニ本案ニ立入ヲサルヲ得ヌ被告ハ今ニシテ本案ノ裁判アルトキハ農商務大臣ノ職權ヲ害スル如ク申立レトモ己ニ訴願ヲ却下セラレタルトキハ大臣ニ於テ裁斷スヘキ途ナカルヘシ依テ當裁判所ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スヘシト裁判アルモ差支ナシト云フニ在リ

被告代理人答辯ノ要旨ハ佐賀縣肥前國杵島郡大野町村大字大町小字杉谷籠石炭坑借區ハ明治廿三年十月二十七日ヲ以テ村岡致遠外一名ニ許可シ原告ノ出願ハ聞届難シト爲シ却下シタリ其ノ後明治二十四年二月二十三日ニ至リ原告等ハ村岡致遠等ニ借區許可セラレタルヲ以テ詐僞ニ基ケリト稱シ農商務大臣ニ向テ其許可ノ取消ヲ出願シタリ依テ被告農商務大臣ハ成規ニ從ヒ審査ヲ遂ケタルニ原告等ノ出願ハ訴願法ニ

據ルニ其出願期限ヲ經過スルコト己ニ二箇月ナリシ故其出願ヲ却下シタルナリ其理由ハ我邦現在ノ法制ニ依ルニ行政官廳ニ向ヒ其處分ノ變更廢止ヲ權利トシテ要求シ得ル手續ハ單ニ訴願ノ一方法アルノミ而シテ行政官廳ハ特別ノ規定アルモノ、外其訴願ヲ取扱フヤ訴願法ノ規定ニ依據セサルヘカラス故ニ訴願法第十七條ヲ裏面ヨリ解釋スレハ則訴願ハ特ニ法律規則ニ於テ訴願法ニ據ルヘカラスト規定シタルモノ、外總テ訴願法ニ據ルヘキヤ明了ナリトス日本抗法ハ明治二十三年七月法律第五十五號ヲ以テ改正セラレタルモノニシテ訴願法ハ同二十三年十月發布セラレタルモノナリ而シテ該抗法第十款第五項ニ基ケル出願ノ事ハ其實行政官廳ニ向ヒ其處分ノ變更廢止ヲ權利トシテ要求スルモノタルニ付假令(申立)又ハ(請求)等ノ文字アルモ訴願法ノ規定ニ從フヘキハ法理ナリトス且夫レ其後二箇月ヲ經テ發布セラレタル法律第八十七號鑛業條例第三十四條ニ依ルハ夫ノ(申立)又ハ(請求)ナル文字ハ(訴願)トアリテ己ニ更改セラレタリ亦以テ日本抗法第十款第五項ノ出願ハ訴願タルコト疑フヘ

キナシ原告等ハ其願書ヲ訴願法ニ依リ訂正シ呈出シタルヲ以テスルモ本訴出願ハ訴願法ニ依ル可キモノタルヲ自認シタルニ於テオヤ又タ原告等ハ日本抗法第十款第五項ニ出願ノ期限ヲ明記セサルヲ以テ云々スレトモ己ニ該出願ハ訴願法ヲ適用スヘキモノナレハ訴願法第八條ニ依リ其訴願期限ヲ六十日ト爲サ、ルヘカラス特ニ法律第八十七號第三十四條ニ三十日以内ト明記シアルヲ以テスルモ該第十款第五項ノ精神タル期限ヲ必要トスルコトヲ見ルヘク又タ第八十七號第三十四條ニ(特許)ノ日ヨリトアレハ右第十款第五項ノ眞意タル發見ノ時ヨリ起算スヘキモノニアラスシテ許可ノ時ヨリ之レヲ爲スヘキハ明瞭ナリ又原告ハ原告ノ處分ヲ取消シ尙本案ノ裁判ヲ請フト申立ツレトモ本件ハ期限ヲ過キタル爲メ却下ヲ受ケ未タ本案ニ就キ農商務大臣カ指令ヲ爲シタルコトナキモノナレハ行政裁判所ニ於テハ裁判スルコトヲ得サルモノナリ又本件ノ如キハ許可ヲ受ケタル第三者ノ在ルアレハ之ニ對シ民事ノ裁判ヲ求ムヘキ者ニシテ當裁判所ニ向テハ本案ノ裁判ヲ要求スルヲ得ス依テ本訴ハ棄却ア

ラソコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聞キ理由ヲ説明スルヲ左ノ如シ

被告ハ行政官廳カ爲シタル處分ノ變更又ハ廢止ヲ要求スル手續ハ法律規則中訴願法ニ據ルヘカラスト規定シタルモノ、外ハ總テ訴願法ニ據ルヘキハ當然ナレハ日本坑法第十款第五項ノ申立ヲ爲スモノハ訴願法ニ據ルヘキモノナルニ爰ニ原告カ爲シタル申立ハ訴願法規定ノ日限ヲ經過シタルヲ以テ之ヲ却下シタルモノナレハ原告ハ本訴ヲ提起スルヲ得スト云フト雖日本坑法第十款第五項ノ申立ハ明治二十三年法律第百五號訴願法ニ據ルヘキモノニアラス然ルニ被告農商務大臣ハ本件原告カ日本坑法第十款第五項ニ依リテ爲シタル申立ヲ以テ訴願法ノ規定ニ違フモノナリトシテ之ヲ却下シタルハ其當ヲ得ルモノト謂フヲ得ス故ニ被告ハ本件原告ニ與ヘタル指令ヲ取消シ更ニ借區許可取消請求ニ對シ相當ノ指令ヲ爲スヘキモノトス
右ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ明治二十四年五月二十三日付ヲ以テ原告ニ與ヘタル裁決書ヲ取消シ本件原告ノ申立タル借區許可取消請求ニ對シ相當ノ指令ヲ爲ス可シ
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

明治二十四年十二月二十八日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

訴願法

第八條 行政處分ヲ受ケタル後七十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス
行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ル

日本坑法

第十款 (本章第一ノ參照)ニ出ツ

鑛業條例

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ探掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其特許ヲ取消スヘシ若シ其特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其關係ヲ有スル者ハ特許

ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得
前項農務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコト
ヲ得

部外行政裁判法第二十七條ノ規定ニ依リ却下シタル事件

行政裁判所は原告の訴狀に就て審査し若し法律勅令に依り行政訴訟を提起すへ
からざるものなるか又は適法の手續に違背するものなるときは其理由を付した
る裁判書を以て之を却下すへし
其訴狀の法式を缺くに止まるものは之を改正せしむる爲め期限を指定して還付
すへし

(一) 不當賦課取消ノ件

裁 決 書

巖手縣陸中國閉伊郡大槌町

原 告 助 役 前 川 和 三

右原告前川和三ヨリ巖手縣知事石川省一郎ニ係ル不當賦課取消ノ訴願ニ對シ巖手縣參
事官ノ判定不法ト題スル訴狀ヲ審査スルニ

本件ノ要旨ハ町村制第二百十條ニ規定セル訴願期限ノ計算ハ交付ヲ受ケタル初日ヲ

算入スヘキモノニ非サルニ巖手縣知事ハ原告ノ提起シタル訴願ニ對シ郡長ヨリ裁決書ノ交付ヲ受ケタル初日ヲ算入シテ其期限ノ經過シタルモノト判定シ之ヲ棄却シタルハ不當ナルニ依リ其取消ヲ訴求スト云フニ在リト雖町村制中本件ノ如キ訴願ノ棄却ニ對シ出訴ヲ許スノ明文ナキヲ以テ原告ハ其取消ヲ請求スルノ權ナキモノトス右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノニ付行政裁判法第二十七條ニ據リ之ヲ却下ス
明治二十三年十月二十八日

(參照)

町村制

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得
町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス
此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セン

トスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

(二) 土地拂下願不當處分取消ノ件
裁 決 書

東京府武藏國北豐島郡坂本村五十二番地平民僧
侶亡釋春成蹟相續人釋秀吉後見人東京府東京市
本郷區元町二丁目六十六番地寄留兵庫縣士族

原 告 近 藤 和 定

東京府東京市下谷區仲徒町三丁目六十九番
地寄留群馬縣平民

代 言 人 高 橋 庄 之 助

右原告近藤和定ヨリ静岡縣知事時任爲基ニ係ル土地拂下出願之件不當處分取消ト題スル訴狀ヲ審査スルニ

本件ノ要旨ハ静岡縣伊豆國加茂郡伊豆山村字野中山耕宅地山林段別ノ内一町五反六

畝一步ハ釋秀吉先代以來借用地ナルニ明治九年八月中靜岡縣非山支廳ハ土地ノ處分ヲ爲シタルニ依リ明治十五年三月ニ至リ靜岡縣廳ニ其拂下ヲ出願シタル處五反六畝一步ハ開届ラレ磯部ハ許可セラレサルニ依リ明治廿年九月更ニ其磯部ノ拂下ヲ同縣廳ニ出願シタルモ難聞届旨ノ指令ヲ爲シタルハ明治九年三月二十五日內務省乙第三十八號達ニ違背スルモノナルヲ以テ其指令取消ノ上磯部拂下ヲ訴求スト云フニ在リト雖モ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ之ヲ訴求スルノ權利ナキモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サル者ナルニ付行政裁判法第廿七條ニ據リ之ヲ却下ス
明治二十三年十一月十五日

(三) 避病院認可書取消ノ件

裁決書

靜岡縣遠江國佐野郡掛川町掛川千七十四番
地士族吉田金六外四十七名總代人

同縣同國同郡同町同所九百四十三番地平民農

原告

服部 徳 八

外 一 名

靜岡縣知事

被告

時 任 爲 基

右原告カ避病院認可書取消ト題スル訴狀ヲ審査スルニ

本件ノ要旨ハ靜岡縣知事ニ於テ町長ノ出願ヲ容レ掛川町廓内へ避病院新設ヲ許可シタルモ該地ハ不適當ナルニ付其場所ノ變更ヲ請求スルニ在リト雖本件ノ如キ事項ニ對シテハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ之ヲ訴求スルノ權利ナキモノトス

右ノ理由ニ付裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノニ付行政裁判法第二十七條ニ據リ之ヲ却下ス

明治二十三年十一月十五日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(四) 不當處分取消ノ件

裁決書

長野縣信濃國南安曇郡西穂高村々會議員

原告 寺島善八

外九名

東京府東京市神田區今川小路二丁目十四番地士族

代理人 高橋拾六

外一名

右原告寺島善八外九名ヨリ長野縣南安曇郡西穂高村々長藤原四郎治ニ對スル不當處分取消ト題スル訴狀ニ就キ審査スルニ

未件ノ要旨ハ原告ハ西穂高村々長藤原四郎治ニ於テ町村制第百十六條第一項ニ基キ町村組合ヲ設置スルニ當リ村會ニ諮問セシメテ組合協議員ヲ選定シ組合規則ヲ議決セシメタルヲ不當ノ處分ナリトシ長野縣知事ニ訴願シタル後更ニ之ヲ内務大臣ニ訴

願シタルモ不受理ノ裁決ヲ受ケタルニ服セス尙其裁決ノ取消ヲ訴求シ該協議員ノ選舉及其議定セル組合規則ヲ無効ナラシメタシト云フニ在リト雖町村制ニ於テハ本件ノ事項ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ其訴權ヲ有セサルモノトス右ノ理由ナルニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サル者ナルニ付行政裁判法第廿七條ニ據リ之ヲ却下ス明治二十三年十一月十八日

(參照)

町村制

第百十六條第一項 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

(五) 不法訂正命令取消ノ件

裁決書

靜岡縣伊豆國若江郡戸田村井田第三十四番地

平民農兼戸田村井田土肥村小土肥西豆村
八木澤小下田漁業者第三百三十二人總代

原告

高田 四郎左衛門

外三名

右原告ヨリ静岡縣知事時任爲基ニ係ル不法訂正命令取消ト題スル訴狀ニ就テ審査スルニ

本件ノ要旨ハ原告ハ組合各村合意ノ上伊豆國若澤漁業組合規約ヲ議定シテ被告知事ニ認可ヲ求メタルニ知事カ其規約ニ對シ訂正ノ命令ヲ爲シタルハ不法ナルニ依リ之カ取消ヲ請求スト云フニ在リト雖本件ノ如キ處分ニ關シテハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ起スノ規定ナキヲ以テ出訴スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニヨリ之ヲ却下ス

明治二十三年十二月十一日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(六) 不當處分取消授産地下渡ノ件

裁決書

千葉縣下總國印旛郡富里村七榮百卅二番地

平民農業佐瀬平右衛門外四十六名總代同所

三百二十七番地平民農業

原告

石井 徳兵衛

外二名

右原告佐藤平左衛門外四十九名ヨリ千葉縣知事藤島正健ニ對スル不當處分取消授産地下渡之件訴訟ニ就テ審査スルニ

本件ノ要旨ハ千葉縣下總國印旛郡富里村原野ノ内開墾地タル六十一町五反九畝九歩ハ原告等ニ於テ開發シタルモノナレハ之カ下渡ヲ受ヘキ筈ナルニ千葉縣廳ハ其下渡

地ノ査定ヲ誤リ不當ノ處分ヲ爲シタルニ付明治二十三年法律第四十八號第十七條並
法律第六號第五ニ依リ其處分ヲ取消シ該地下渡ヲ請求スト云フニ在リト雖法律
第六號第五ハ土地官民有區分ノ査定ニ關スル事件トアルニ依リ本件ノ如キ土地ノ
下渡處分ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ原告ハ出訴スルヲ得サルモノトス
右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ
本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノナルニ付行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却
下ス

明治二十三年十二月十三日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

明治二十三年法律第四十八號

行政裁判法

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外地方行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ
非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
各省大臣ノ處分又ハ內閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコト

ヲ得各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

明治二十三年法律第六號(行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル事件)

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手数料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

(七) 鑛山借區券書換受理催促ノ件

裁 決 書

東京府東京市芝區三田四丁目五十六番地平民雜業

原 告 岡 田 平 太 郎

同府同市日本橋區村松町十二番地平民

代 言 人 熊 谷 寬 治

外 一 名

右原告岡田平太郎ヨリ農商務大臣陸奥宗光ニ係ル尾去澤鑛山借區券書換願受理催促ノ件訴狀ニ就キ審査スルニ

本訴ノ要旨ハ尾去澤鑛山借區券記名ノ書換ヲ秋田縣廳ニ出願シタルニ同縣廳ニ於テ其出願ヲ却下セシハ農商務省ガ其鑛山ヲ引揚ケタルニ職由スルモノト爲シ同書ニ係リ該借區券記名ノ書換ヲ訴求スルニ在リ而シテ原告ハ本年法律第百六號第三ニ營業免許ノ拒否云々トアリ及行政裁判法第十七條第二項ニ各省大臣ノ處分ニ對シテ直ニ行政訴訟ヲ提起スルヲ得トアルニ依リ出訴權ヲ有スト云フト雖本年法律第百六號ノ第三ハ營業願ニ對スル免許ノ拒否ヲ云フニ在テ本件ノ如キ鑛山借區券記名ノ書換願ニ適用シ得ヘキモノニアラス行政裁判法第十七條第二ハ各省直接ノ處分ニ對シテハ訴願ヲ經ルヲ要セサルノ規定ナルモ其事件ハ同法第十五條ノ明文ニ基キ法律勅令ニ出訴ヲ許シタルモノニアラサレハ出訴スルヲ得サルヲ以テ訴權ナキモノトス右ノ理由ニヨリ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノナルニ付行政裁判法第二十七條ニ據リ之ヲ却下ス

明治二十三年十二月十五日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

明治二十三年法律第百六號(行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル事件)

第三 (本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

行政裁判法

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十七條第二項 (本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

(八) 不當ノ新道増設工事差止ノ件

裁 決 書

岐阜縣美濃國本巢郡北方町字俵町同増屋町
同戸羽町席田郡加茂村字加茂町人民總代
同縣同國本巢郡北方町五十三番戸平民藥商

原告 河村 透

東京府東京市麴町區飯田町四丁目三十番地

寄留岐阜縣平民

代理人 神谷 泰一

右原告河村透ヨリ被告岐阜縣知事小崎利準ニ對スル不當ノ新道増設工事差止ノ件ヲ審查スルニ

本件ノ要旨ハ被告縣知事ハ岐阜縣美濃國大野郡大河原村ヨリ本巢郡北方町ニ達スル根尾街道改修工事中本道南部ニ當ル席田郡上ノ保村ヨリ本巢郡北方町ニ至ル凡ソ一里程ノ道路ニ付岐阜縣臨時縣會ヲ議決シタル本道改修ノ外ニ一二村落ノ請願ニ基キ僅々十町内外ノ距離ヲ隔テ更ニ新道増工事ヲ起スハ縣會ノ議決及被告知事ノ發布シタル縣令ニ違背シタルモノニシテ郡民一般ノ權利ト原告等舊道路ニ依テ營業シ來レル權利トヲ毀損シ併テ莫大ノ地方稅ヲ消費スルニ至ラントスルヲ以テ本年法律第百

六號ニ依リ該工事ノ差止メヲ請求スト云フニ在リト雖法律第百六號ハ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ニ限り出訴ヲ許スノ規定ナルニ本件所爭ノ工事ニ關シテハ直接ニ原告人ニ屬スル權利ト認ムヘキモノ無之ニ付出訴スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノニ付行政裁判法第二十七條ニヨリ之ヲ却下ス明治二十三年十二月十六日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

明治二十三年法律第百六號(本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

(九) 舊静岡藩證書金額下渡請求ノ件

裁 決 書

東京府東京市淺草區西鳥越町三番地平民

手袋製造業

原告 佐藤文吾

右原告佐藤文吾ヨリ被告大藏大臣ニ對スル舊静岡藩證書金額下渡請求ノ件ヲ審査スルニ

本件ノ要旨ハ明治元年十二月中原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ同藩家名再興以後ノ負債ニ屬スヘキモノニ付大藏省ヨリ該金額及利息ノ下渡ヲ受ケタシト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキニ依リ出訴スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治二十三年十二月十六日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(十) 舊静岡藩證書金額下渡請求ノ件

裁決書

東京府東京市淺草區西鳥越町三番地平民

手袋製造業

原告 佐藤文吾

右原告佐藤文吾ヨリ被告大藏大臣ニ對スル舊静岡藩證書金額下渡請求ノ件ヲ審査スルニ

本件ノ要旨ハ明治元年十二月中原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ同藩家名再興以後ノ負債ニ屬スヘキモノナルニ國債局ニ於テ當時ノ帳簿記載ノ年月日ニ依リテ同藩家名再興以前ニ係ルモノト否トヲ區別シ其証書記載ノ金額ヲ下渡サ、ルハ不當ナリト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ出訴スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス
明治二十三年十二月十六日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(十一) 舊静岡藩証書下渡金違算ノ分請求ノ件

裁 決 書

東京府東京市淺草區西鳥越町三番地平民
手袋製造業

原 告 佐 藤 文 吾

右原告佐藤文吾ヨリ被告大藏大臣ニ對スル舊静岡藩証書下渡金違算ノ分請求ノ件ヲ審
査スルニ

本件ノ要旨ハ原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ明治九年八月二十二日東京府達
ニ掲載シタル秋田甚兵衛ノ通帳金高割ニ類推シ其分合ニ當ル金額ノ下渡ヲ受クヘキ
モノナルニ違算ノ儘下付シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政

訴訟ヲ許スノ規定ナキニ依リ出訴スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治二十三年十二月十六日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(十二) 訴願及出訴ノ權利回復ノ件

裁 決 書

巖手縣東閉伊郡山田町船越村織笠村大澤村

組合主垣

同縣同郡山田町長

原 告 中 野 健 次 郎

右原告人中野健次郎ヨリ被告巖手縣知事石井省一郎ニ對スル訴願及出訴ノ權利回復ノ
件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ

原告ニ於テ巖手縣東閉伊郡船越村カ山田町外三ヶ村組合共同稼業ニ係ル明治廿三年度
漁業税ニ附加税ヲ賦課シタル件ニ付船越村村長及東中北閉伊郡長ニ訴願ノ末被告巖手
縣知事ニ訴願ヲ爲シタルニ被告ハ本件訴願ハ町村行政ニ關スルモノナルヲ以テ町村制
第百廿條第二項ノ規定ニ從ハサル可キヲサルモノナレハ東中北閉伊郡長カ訴願期限經
過ノ理由ヲ以テ受理セサリシハ不當ノ處分ニアラスト裁決シタルヲ不當ナリト云フニ
在リト雖被告ハ原告ノ訴願ニ對シ裁決ヲナシタル者ニシテ當初處分ヲ爲シタル者ニアラ
サレハ本件ノ對手人ト爲スヘキモノニアラス故ニ本訴ハ之ヲ受理スルノ限リニ在ラス
右ノ理由ナルヲ以テ本件ハ之ヲ却下ス

明治廿四年一月廿七日行政裁判所ニ決テ裁決ス

(參照)

町村制

第百二十條第二項 (本部第一ノ(參照)ニ出ツ)

(十三) 石炭坑借區願不當處分取消ノ件

○明治廿三年第十八號

裁判宣告書

福岡縣筑前國鞍手郡福地村大字上塚千八百

十一番地士族

原告

占部三折

外六名

東京市日本橋區本町一丁目六番地

代言人

大谷木備一郎

農商務大臣

被告

陸奥宗光

同省參事官

代人

田中隆三

右原告占部三折外六名ヨリ被告農商務大臣ニ對スル石炭坑借區願不當ノ處分取消ノ訴
審理ヲ遂クル處

原告代言人請求ノ要旨ハ被告農商務大臣ハ原告ガ就願者ナル淺野物一郎ヨリ願出タル福岡縣筑前國鞍手郡勝野村大字御徳小字權現堂ノ石炭坑區增借區願ニ對シ其許可ヲ與ヘタリ右淺野物一郎ノ出願手續ハ日本坑法ニ違反スルモノナルヲ以テ甲第八號証及甲第十八號証一二三ノ通農商務省ニ申出タルニ農商務大臣ハ甲第十九號証ノ如ク原告ノ增借區願ニ對シ聞届難キノ指令ヲ爲シタルハ違法ノ處分ナルニ依リ其不當處分ヲ取消シ原告人等ニ許可ヲ與ヘラレシコトヲ請フ而シテ被告ハ本件ハ日本坑法第十款ノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ出訴スルコトヲ得スト云フモ前述ノ如ク幾ニ事實ヲ悉シテ農商務大臣ニ申立ヲ爲シタルモノナレハ同一事件ニ對シ更ニ日本坑法

款第五項ノ申立ヲ爲スヲ要セス又二十三年法律第百六號第三ニ據ルモ出訴權アルモノニ付本件訴訟ヲ爲シタリト云フニ在リ

被告代人答辯ノ要旨ハ原告人等ニ於テ他人ノ借區ヲ取消サント欲セハ日本坑法第十款ノ規定ニ依リ一旦之ヲ農商務大臣ニ申立サルヲ得ス又二十三年法律第百六號第三營業免許ノ拒否ニ關スル事件トアルハ鑛山借區願ニ適用スヘキモノニ非サレハ原告人ハ訴訟ヲ爲スヘキ權ナキ者ナルニ依リ本件ハ速ニ棄却アラシムコトヲ望ムト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ説明スル左ノ如シ

原告ニ於テ本件ハ明治二十三年法律第百六號第三ニ依リ出訴權ヲ有スルモノナリト云フト雖モ鑛山借區ノ免許ハ日本坑法第一章第二ニ定メタル政府所有ノ鑛物ヲ採掘センカ爲メニスル借區ノ免許ナレハ本件ノ如キハ明治二十三年法律第百六號第三營業免許ノ範圍内ニ在ラサルモノトス又原告ハ淺野物一郎ノ出願手續カ日本坑法ニ違反セル件

ハ曩ニ農商務大臣ニ申立ヲ爲シタルニ依リ更ニ坑法第十款第五項ノ申立ヲ爲スヲ要セ
 スト云フト雖本件ハ坑法第十款第六項ノ場合ニ於テ行政訴訟ヲ爲シ得ルモノニシテ即
 チ同款第五項ノ申立ニ對スル指令ニ不服アルモノナラサルヲ得ス然ルニ原告カ曩ニ農
 務大臣ニ申立ヲ爲シタルハ競願者ノ資格ヲ以テ淺野惣一郎カ借區願許可以前ニ於テ
 爲シタルモノナレハ坑法第十款第五項ノ規定ニ適當スルモノニアラス故ニ原告ニ於テ
 本訴ヲ提起セント欲セハ先ツ同法ニ依リ更ニ農商務大臣ニ申立其指令ヲ受タル後ニ非
 サレハ出訴スルコトヲ得サルモノトス其他必要ト認メサル原被告ノ陳述ニ付テハ之カ
 説明ヲ與ヘス
 右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
 本件ハ之ヲ棄却ス
 訴訟入費ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年一月三十一日行政裁判所公延ニ於テ宣告ス

(參照)

日本坑法

第二 前ニ掲記セシ物類凡ソ日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ政府ノミ之ヲ
 採用スル分義アリ

第十 借區出願人ハ其出願地ニ於テ採掘セントスル礦物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其証明ヲナス能ハ
 サルトキハ其出願ヲ無効トス

農商務大臣礦物ノ存在ヲ認メス又ハ試掘若ハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルハ其出願ヲ許可セス試
 掘若ハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

試掘人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求ス
 ルコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區ノ許可詐偽又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ農商
 務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ之ヲ農
 務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 明治二十三年法律第六號 (本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

(十四) 區會議員當選取消ノ件

○明治廿三年第一號ノ二

裁判宣告書

茨城縣常陸國東茨城郡澤山村大字阿波山六十五番地平民農

原告 德 宿 壽 吉

外 一 名

東京府東京市日本橋區村松町三十九番地

代 言 人 合 川 正 道

茨城縣常陸國東茨城郡澤山村大字阿波山十

三番地平民

被 告 和 田 房 吉

東京府東京市深川區佐賀町一丁目十二番地

寄留茨城縣士族

代 言 人 鴨 志 田 直

右原告人德宿壽吉外一名ヨリ被告和田房吉ニ對スル區會議員當撰取消ノ訴遂審理處原告訴フル要旨ハ被告和田房吉ハ烟草仲買商山崎秀之助方ニ寄留シ該營業ノ携帶雇入ナルヲ以テ町村公民タル資格ノ要件ヲ缺キ從テ區會議員タルノ資格ヲ有セサルモノナレハ被告カ本年三月中區會議員ノ撰舉ニ當撰シタルハ不當ナルニ由リ其當撰ノ取消ヲ請求スト云フニ在リト雖本訴ハ撰舉掛長ヲ被告ト爲サスシテ一箇人タル被撰人和田房吉ヲ被告ト爲シタルハ行政訴訟ノ對手人ヲ誤マリタルモノトス右ノ理由ニ依リ本訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十四年二月三日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

(參照)

町村制

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ

分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額貳圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其
公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ
定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此ノ法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

(十五) 不當處分取消ノ件

○明治二十三年第十七號

裁 決 書

長野縣信濃國上高井郡小山村大字小山永田

林之助外二百三十六名總代

同縣同國同郡同村九十五番地平民農

原 告

山 口 與 總 治

外 五 名

東京府東京市麴町區飯田町三丁目十六番地士族

代 言 人

芦 澤 孝 太 郎

右原告永田林之助外二百四十名總代山口與惣治外五名ヨリ長野縣知事内海忠勝ニ係ル
不當處分取消ノ件ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ

本訴ノ要旨ハ原告ニ於テ信濃國上高井郡小山村長カ明治二十三年四月中戸別割等級割
稅ヲ附加稅トシテ徵收シタルハ不法ナルヲ以テ其既納稅金ノ返還ヲ訴願シタルニ縣知
事ハ其訴願ニ對シ小山村稅追加中戸別等級割ハ特別稅ニ屬シ附加稅トシテ徵收スヘキ
者ニアラスト裁決シタルニモ拘ラス該既納稅金ハ原告等ニ償還スルニ及ハサル旨ヲ村
長ニ命令シタルヲ不當トシ明治二十三年法律第百六號第一項ニ從ヒ之カ取消ヲ要求ス
ト云ニフ在リト雖村稅ノ賦課ニ關シテハ町村制ニ依リ村長ニ係リ出訴スルヲ得ヘキモ
本件ノ如ク縣知事カ村長ニ與ヘタル命令ニ對シ起訴スルヲ得サルモノトス
右ノ理由ニ依リ本訴ハ之ヲ却下ス

明治二十四年二月二十七日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

町村制

第四百條 町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス
第五百條 町村税ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

明治二十三年法律第六號 (本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

(十六) 官有地下戻ノ件

○明治二十四年第六號

裁 決 書

廣島縣安藝國賀茂郡乃美尾村平民農

沖谷久兵衛外百三十名總代

同縣同國同郡同村二百五十七番邸平民農

原 告

森 房 澄 江

右原告ヨリ被告農商務大臣陸奥宗光ニ對スル官有地下戻ノ件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ原告ニ於テ廣島縣賀茂郡乃美尾村字平山凡反別七十六町四段歩同村字藤コウロ山凡反別卅二町六段歩同村字ハイトコロ山反別五十三町七段余歩ヲ原告村民有地ニ下戻ノ願ニ對シ被告農商務大臣カ其下戻ヲ拒ムハ不當ナリト云フニアリト雖モ明治十三年八月十二日官有地ニ編入ノ處分ヲ受テ明治二十三年十月十五日ニ至リ該地下戻ノ請願ニ對スル指令ヲ受ケタルモノナルモ元來行政處分ノ既ニ五年ヲ經タルモノハ請願ヲ受理セラレサルモノナレハ該請願ハ其効ヲ有セサルモノトス而シテ原告ハ明治二十三年法律第六號ニ據テ本訴ヲ提起セリト謂フモ第六號法律實施以後行政裁判所ヘノ行程日數ヲ除キ六十日間ニ在テ訴訟ノ提起ヲ爲スヘキニ既ニ行政裁判法第二十二條ノ期限ヲ經過スルモノナルヲ以テ行政訴訟ヲ爲スヲ得サルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ハ之ヲ却下ス
明治二十四年三月十一日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

請願規則

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

(十七) 不當處分取消ノ件

○明治二十四年第七號

裁 決 書

新潟縣越後國中頸城郡春日村平民

原 告 田 中 恒 三

東京府東京市京橋區南鍋町二丁目十番地寄留

三重縣平民

代 言 人 町 井 鐵 之 助

外 一 名

右原告田中恒三ヨリ被告新潟縣越後國中頸城郡長遠山千里ニ對スル不當處分取消請求

ノ件ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ

原告請求ノ要旨ハ原告ハ新潟縣越後國中頸城郡春日村村會議員ノ資格ヲ有シ居リシニ
 明治二十三年三月二十二日突然春日村長ヨリ解職ノ通知ヲ受ケタレトモ該處分ハ不當
 ニ付明治二十三年三月二十四日被告郡長ニ訴願シタルニ郡長ハ明治二十三年四月八日
 春日村々會カ町村制第九條末項ニ照シ原告カ村會議員ノ職ヲ解キシハ其當ヲ得サルモ
 ノト裁決シタルニ拘ハラヌ明治二十三年九月十二日原告ニ對シ村會議員解職ノ通知ヲ
 爲シタルハ前後撞著ノ處分ニ付新潟縣知事ニ訴願ヲ爲シタルニ同知事ハ明治二十三年
 十月廿七日被告郡長カ爲シタル處分ハ正當ナリトノ裁決ヲ與ヘタルトモ原告ハ服從ス
 ル能ハサルヲ以テ明治二十三年十月十七日內務大臣ヘ訴願セシニ該訴願ハ行政裁判所
 へ出訴ス可キモノナリトテ却下セラレタルヲ以テ郡長カ爲シタル處分ノ取消ヲ請求ス
 ト云フニ有リト雖本件ハ町村制第二百二十條第三項ニ依リ其裁決書ヲ交付シタル日ヨリ
 二十一日以內ニ出訴ヲ爲ス可キニ既ニ其期限ヲ經過シタルモノナレハ原告ハ行政訴訟

提起ノ權ヲ失ヒタルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治二十四年三月十二日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

町村制

第二百十條第三項 (本部第一ノ(參照)ニ出ツ)

(十八) 水車營業許可ノ件

裁 決 書

神奈川縣武藏國橋樹郡稻田村大字宿川原

六十四番地平民農

原 告 三 竹 傳 藏

東京府東京市麴町區四番町五番地寄留長野

縣士族

代 言 人 丸 山 名 政

右原告三竹傳藏外八名ヨリ被告神奈川縣知事淺田德則ニ係ル水車營業許可取消ノ件訴
訟ニ就テ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ被告縣知事ハ明治二十一年十一月七日甲第二號證ノ通リ神奈川縣橋
樹郡稻田村大字登戸字辛耕地三千三百六十四番地井上延次郎ヨリ差出シタル水車設置
願ニ對シ同月二十二日ニ許可ノ指令ヲ與ヘタリ然ルニ該水車設置以來四季間斷ナク多
量ノ水流ヲ使用スルヲ以テ其下流ハ冬季ト雖モ溢レテ田面ヲ浸シ草木ノ發生ヲ妨タケ
夏季ニ至レハ益々多量ノ水流ヲ成シテ田面殆ト池沼ノ如ク爲ニ泥土膨脹シ温素ヲ吸收
セス依テ稻ノ發生ヲ妨ケ收穫ヲ減スルコト著シキモノアリ是レ即該水車ノ爲ニ原告カ
被ムル所ノ損害ナリ夫レ此ノ如ク水下接近ノ耕地ニ損害ヲ與フルノ場合ニ於テハ甲第
一號證縣令第三條ニ依リ水下關係地主トシテ原告ノ承諾調印ヲ經ヘキ筈ナルニ井上延

次郎ハ曾テ此手續ヲ履行セス戸長亦此點ニ心付カスシテ奥印ヲ爲シタルニ被告縣知事
 カ原告ノ承諾ナキ無資格ノ願ニ向テ許可ノ指令ヲ與ヘタルハ(第一)明治二十三年法律
 第百六號第三ノ營業免許ニ關シ原告ノ權利ヲ毀損シ(第二)同法律第四ノ水利ニ關シ原
 告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナレハ其指令ノ取消ヲ請求スト云ヒ又本件ハ明治二
 十三年四月二十三日請願規則ニ依リ被告縣知事へ請願シタル處許否ノ指令遷延シ若シ
 拾遺クトキハ原告ノ權利ニ大關係ヲ及ホスヲ以テ明治二十四年一月十五日上申ノ上却
 下ヲ受テ遂ニ本訴ニ及ヒタルモノナリ故ニ出訴期限ハ行政裁判法第二十二條ニ依リ其
 却下ノ日ヨリ起算シ滿六十日ヲ以テ限度トスヘキモノナリト云●ニ在リト雖被告縣知
 事カ原告ノ請願ヲ却下シタルハ即チ原告ノ申出ニ依リ其願意ヲ達セシメタルモノナル
 ニ過キス依テ神奈川縣知事ニ出願シ其指令ヲ受ケタル後出訴ス可キモノニシテ本件ハ
 未タ行政廳ノ處分ヲ受ケタルモノニ在ラサルヲ以テ受理スヘキモノニ非ラストス
 右ノ理由ニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス
 明治二十四年三月十九日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

請願規則

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ル可シ

第二條 (前略)府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ(後略)
 行政裁判法

第二十二條 (本部第十八ノ(參照)ニ出ツ)

(十九) 不當ノ職務取扱ノ件

○明治二十四年第十九號

裁 決 書

秋田縣羽後國由利郡本莊町東町七番地士族
 無職業

原 告

加藤吉右衛門

同縣同郡本莊町町長

被告 石垣 照甫

右原告加藤吉右衛門ヨリ被告石垣照甫ニ對スル不當ノ職務取扱ノ訴件ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ原告訴求ノ要旨ハ原告ハ本莊町七十五番宅地ニ寄席小屋ヲ設置シ明治二十三年五月三十一日ヲ以テ被告役場へ建築届ヲ爲シタルニ本年一月二十九日ニ至リ被告ハ突然右寄席小屋ハ同町遠田善四郎ヨリ明治二十一年七月中寄席小屋建築願ヲ爲シ其筋ヲ認可ヲ得タルモノナレハ善四郎カ所有タルヲ承認シ曩ニ差出タル建築届ヲ返戻スル旨原告ニ達シタルハ違法ノ取扱ニシテ明治二十三年五月原告カ町役場ニ向テ建築願ヲ爲シタル後訴訟事件ニ付説明願ヲ被告ニ差出タル節右建物ハ加藤吉右衛門所有相違ナキ旨ヲ證明シタル事實アルノミナラス建築届ハ町役場ノ主管ニ屬シ建築検査願ハ警察署ノ主管ニ屬スルモノナルニ遠田善四郎カ警察署ニ差出タル願ヲ以テ原告カ町役場ニ爲シタル届ヲ下戻シタルハ不當ナリト云フニ在リト雖本件ノ如キハ法律勅令中行政訴

訟トシテ出訴スルヲ得ルノ規定ナキモノナレハ之ヲ受理スルノ限ニ非ス
右ノ理由ナルニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス
明治二十四年五月十二日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(二十) 舊松山藩卒族積立米下渡請願ニ對スル訓示不服ノ件

○明治二十四年第二十二號

裁 決 書

愛媛縣伊豫國松山市大字北京町九十九番戶

士族無職原告宮本芳一外二百卅六名總代兼

原告 岡 田 吉 備

東京府武藏國東京市京橋區鎗屋町九番地寄留

愛媛縣士族代言人

辯護人 村 上 正 幸

大藏大臣

被告 伯爵 松方 正義

右原告岡田吉備等ヨリ被告大藏大臣ニ對スル舊松山藩卒族積立米下渡請願ニ對スル訓示不服ノ訴件ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ

本訴ノ要旨ハ原告等ハ舊松山藩卒族ニシテ明治三年藩制改革ノ爲メ解放セラレタルモ曾テ舊藩廳ヘ預置タル積立米ハ翌四年十二月同藩ヨリ賦與ト稱ス現米若シクハ代金ヲ以テ下戻スニ際シ原告等カ該積立米ヲ抵當トシ藩廳又ハ人民ヨリ借入レタル米錢ハ藩廳ニ於テ引受該賦與金ヲ以テ之ヲ控除シ其殘金ヲ下附セラレタリ然ルニ同七年八月ニ至リ原告等ヲ復舊シテ士族ニ編入セラレ三年三季分ノ家祿ハ一時ニ下渡スヘキニ付囊キニ下附セシ賦與金並ニ負債金トモ悉皆返納スヘキ旨相達セラレ其家祿ヲ以テ之ヲ差引タルハ即チ該積立米ヲ更ニ徵收シタルモノナリ而シテ明治十一年右公借私借處分換ト爲リタル節彼ノ徵收金額内ヨリ負債金額ノミヲ下戻シ殘金即チ囊ニ一度下渡セシ後

更ニ家祿ヲ引去リタル末金額ヲ下付セサルニ依リ之カ下戻ヲ被告大藏大臣ニ請願シタルモ附屬書訓示ノ如ク原告ノ請願ヲ採用セラレサルハ不當ナリト云フニアレトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ受理スルノ限ニ在ラス

右ノ理由ナルニ依リ裁決スル左ノ如シ

本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治二十四年五月廿三日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(廿一) 組合會議決取消ノ件

○明治二十四年第二十四號

裁 決 書

大分縣日田郡有田村外十九箇町村元組合

管理者日田郡光岡村長

原告 長野 直 恕

大分縣有田郡長

被告

小倉左文

右原告長野直恕ヨリ被告小倉左文ニ對スル組合會議決取消ニ關スル件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ明治二十四年二月二十一日大分縣日田郡西有田村外十五箇町村組合會ハ民費殘額共有金ノ内金二千三百八十三圓ヲ各町村基本財産トシテ割與スルノ議決ヲ爲シタルニ依リ組合會管理者ハ同年三月二日付ヲ以テ被告小倉左文ニ報告シタルニ被告ハ該決議ヲ以テ共同事務ノ區域ヲ超越シタルモノニシテ其當ヲ得サルモノトシ速ニ取消スヘキ旨ヲ達シタルモ取消スヘキ理由ヲ發見セサルニ依リ同年三月三十一日付ヲ以テ組合會議決ノ通り執行スヘキ旨届出タル處同年四月一日該議決ハ取消スヘキモノニ付受理スルノ限ニアラストシテ之ヲ却下シタリ依テ町村制ノ規定ニ從ヒ同年四月九日大分縣知事ニ訴願セシニ同年五月七日裁決書ヲ以テ訴願ヲ却下セラレタルモ組合會ハ毫モ其權限ヲ超越シタル者ニ非ラサルヲ以テ組合會議決ノ通執行セシメテ町村制第百二十

條ニ依リ訴求スト云フニ在リト雖町村制第百廿條ハ府縣知事若シクハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル場合ニ於テ内務大臣ニ訴願スルヲ許シタルモノニシテ行政訴訟ヲ爲シ得ル場合ヲ規定シタルニ非サルニ依リ行政訴訟トシテ出訴スルヲ得サルモノトス
右ノ理由ニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治廿四年六月十六日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

町村制

第百二十條 (本部第一ノ(參照)ニ出ツ)

(廿二) 土地引上處分取消請求ノ件

○明治二十四年第三十四號

裁決書

佐賀縣西松浦郡有田町長

原告

田代

健

東京府東京市日本橋區村松町三十九番地平民

代理人

合川正道

右原告人田代健ヨリ被告佐賀縣知事樺山資雄ニ對スル土地引上處分取消請求ノ件訴狀ニ就キ審査スルニ有田皿山土地五町二段二畝六歩ハ地租改正ノ砌誤テ官有地ニ編入セラレタル處同地ハ原告ノ共有ニシテ民有ノ証左明瞭ナルニ依リ明治十三年四月共有總代岩松平吉ヨリ其訂正方ヲ長崎縣廳ニ願出同縣廳ハ願ヲ容レテ地券ヲ下附セシ者ナルニ被告知事ハ本年五月二日直第八七號ヲ以テ長崎縣ノ處分ヲ取消シ明治十三年ノ當時ノ姿ニ引戻セシハ權利ヲ毀損シタル違法處分ナルニ依リ明治二十三年法律第六號ニ基キ其處分ノ取消ヲ要求スト云フニ在リト雖原告ヨリ提出シタル右直第八七號達書ニ據レハ被告知事ハ長崎縣ノ處分ヲ取消シタルモ其達書文中ニ願出ノ當時添布セシ証憑書類ニ基キ關係人民協議ノ上更ニ地主申出ヘントアリ即被告ハ其地ヲ以テ官有地ト爲サントスルニ非スシテ相當ノ地主ヲ申立テシムルニ在レハ本件ハ官民有地區分ノ査定

ニ關スルモノニアラサルニヨリ明治二十三年法律第六號ニ依リ出訴スルヲ得ル限ニアラヌ

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ヲ却下ス

明治二十四年七月九日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

明治二十三年法律第六號(本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

(廿三) 山本郡長川井忠雄カ爲シタル處分不服ノ件

○明治二十四年第三十六號

裁決書

秋田縣山本郡常盤村會議長

原告

須合泰藏

右原告ヨリ山本郡長川井忠雄カ爲シタル本年四月二十七日ノ處分ニ對シ不服ノ旨ヲ以テ出訴シタル要旨ハ訴狀ニ就キ審査スルニ本年一月秋田縣令第一號ヲ以テ地方稅中商

業税及戸數割各自ノ負擔額ヲ村會ノ議決ニ付託セラレタルニ依リ其議案ヲ本村村會ニ付シタルニ村會ハ之ヲ議決スヘキ權限ナキ者トシ其議案ヲ返付シタリ依テ村會ハ監督官廳内訓ノ旨ヲ以テ更ニ之ヲ再議ニ付シタルニ再ヒ其議案ヲ返付シタルニ依リ村長ハ町村制第六十八條ニ依リ郡參事會ノ裁決ヲ請求スルニ郡參事會ニ於テ町村制第百廿三條ヲ適用シ本村村會ニ代テ議決ヲ爲シタルハ不當ナルニ付其取消方ヲ縣參事會ノ職務ヲ行フ縣知事ニ訴願シタルニ知事カ該處分ハ取消スヘキモノニアラスト裁決シタルハ不服ナルヲ以テ町村制第百二十條ニ依リ右處分ノ取消ヲ要求スト云フニ在リト雖本件ノ如キハ町村制第百二十條第一項ニ依リテ内務大臣ニ訴願ヲ爲スヲ得ヘキモ行政訴訟ヲ爲スヲ許シタル規定ナキモノナレハ之ヲ受理スルノ限ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治廿四年七月十日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

町村制

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ担任ス

町村長ノ担任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及議 ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ヲ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(後略)

第百二十條 (本部第一ノ(參照)ニ出ツ)

第百十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

(廿四) 金錄下賜拒絕指令取消ノ件

○明治二十四年第三十八號

裁 決 書

沖繩縣眞和志間切識名村二百十六番地士族農

原告

安 富 祖 忠 弘

福岡縣筑前國宗像郡上西郷村大字哇町

二百八十一番地平民農

代人

駒井昌貫

東京府東京市日本橋區兜町三番地寄留

山形縣士族東京新組合代言人

補佐人

白井信任

沖繩縣知事

被告

丸岡莞爾

右原告安富祖忠弘ヨリ被告丸岡莞爾ニ對スル金祿下賜拒絶ノ指令取消ノ件訴狀ニ就キ
審査スルニ原告ハ明治二十四年二月十九日金祿下賜ノ儀再願ヲ爲シタルニ被告縣知事
ハ明治二十四年三月二十五日詮議ニ及ヒ難キ旨ノ指令ヲ付シ之ヲ却下シタリ是レ不當
ノ處分ナルニ依リ該指令ヲ取消シ差引殘金貳千四百四十七圓六十九錢三厘ノ返濟ヲ受ケ
且ツ毎年二月八日兩期ニ拂渡スヘキ金圓ヲモ受取り度シト請求スルニ在ルモ本件ハ法

律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノニ非ラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

明治二十四年九月十七日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(廿五) 違法處分取消ノ件

○明治廿四年第四十一號

裁決書

岐阜縣美濃國各務郡芥見村外一箇村組合村長

原告

龜山謙二

右原告龜山謙二ヨリ被告岐阜縣知事小崎利準ニ對スル違法處分取消ノ件ヲ訴狀ニ就キ
審査スルニ被告カ明治二十一年中芥見村外九ヶ村用水路新設ノ爲メ甲第一百一號証ノ如
ク芥見村ヲ該聯合區域ニ編入セシハ明治九年第三百三十號布告ノ趣旨ニ違フモノナルニ
依リ之カ取消ヲ要求スト云フニアリト雖甲第一號証ハ當時ノ編入手續伺書ニ對シ岐阜

縣厚見各務方縣郡長阿部直輔カ其手續ヲ示シタル指令書ニシテ行政廳ノ爲シタル處分
裁決書又ハ告知書ト云フヲ得サルニ付本件ノ處分ヲ受ケタル二十一年ヨリ起算スルト
キハ行政裁判法第二十二條ノ期間ヲ經過シタルモノナルニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ
得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ本訴ハ行政法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

明治二十四年九月二十二日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

明治九年(十月)布告第三百號

各區町村金穀公借共有物取扱規則自今左之通相定候條此旨布告候事

第一條 凡一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スルキハ正副區戶長並ニ其區内町村
ノ總代二名ツ、ノ内六歩以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

第二條 凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物ヲ賣買スルキハ正副區戶長並ニ其町村内
不動産所有ノ者六歩以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

但右不動産所有者ヨリ總代ヲ撰ンテ之カ代理タラシムルハ其都合ニ任スヘシ

第三條 凡ソ區内若クハ町村内ニ於テ土木ヲ起功スル時ハ其區ト町村ナルトニ從ヒ各第一條若クハ第二

條ニ倣フヘシ

第四條 若シ第一條第二條及第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯正副區戶長ノ印ノミヲ鈴シ其須要ナル連印
ナキモノハ總テ之ヲ該區戶長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スヘシ其正副區戶長ノ印ノミヲ以
テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタル者ハ總テ賣買ノ效ヲ有セス

行政裁判法

第二十二條 (本部第十八ノ(參照)ニ出ツ)

(廿六) 併校土木取消請求ノ件

○明治二十四年第四十四號

裁 決 書

山形縣羽前國西置賜郡豐田村大字時庭平民

農鈴木四郎太外七十五名代人兼

同縣同郡同村大字平民農

原 告

大 塲 彦 四 郎

山形縣知事

被告

長谷部辰連

右原告大場彦四郎ヨリ被告縣知事ニ對スル併校土木取消請求ノ件訴狀ニ就キ審査スルニ居村豊田村ノ内大字時庭尋常小學校ハ曾テ大字泉ト合併建設セシ者ナルヲ西置賜郡根岸定靜ハ大字歌丸ヲモ合併一學區トナシ且在來ノ舊校ヲ廢シ新校ヲ建設センコトヲ村會ニ問ヒシニ縣知事ニ申請シ縣知事ハ之ヲ允可シ本縣令第四十九號ヲ以テ小學校位置ヲ歌丸ト定ムルノ公布ヲ發シタリ元來時庭區ハ假令泉區ヲ分離スルモ戸數百二十戸地價金七萬五千八百七拾餘圓ヲ有シ獨立スルノ容易ナリ加之歌丸時庭間ノ遠距離ハ三十餘町ニ及ヒ且白河ノ激流アリテ霖雨積雪ノ候兒童ノ通學ニ不便ヲ來タスノミナラス時々ノ阻障ニ因テ學齡ヲ空過セシムルノ不幸アラントス茲ニ因テ其狀ヲ具シ時庭小學校ハ依然獨立開校シ學校合併新築土木加入ノ義取消アリタキ旨請求セシニ縣知事ノ之ヲ採用セスシテ却下シタルハ小學校令第二十六條乃至第二十八條ノ旨趣ニ背キタル違法處分ニシテ有害無益ト思考スルニ由リ至當ノ裁決ヲ仰クト云フニ有リト雖縣知事ノ

爲シタル小學區畫及學校位置分合存廢處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ者ニ非ラス其土木ニ關シテモ亦違法處分トスヘキ事項ナキヲ以テ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノニ非ラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

明治二十四年九月廿四日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

小學校令

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若クハ困難ナ

ルカ爲過度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定スル場
合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲メ他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并位置ヲ定ムヘシ
 - 二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ
- 郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ
郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二項ノ例ニ據ルヘシ

(廿七) 共有草山並ニ山林讓與ノ稟請ニ對スル不當處分取消要求ノ件

○明治二十四年第四十號

裁 決 書

栃木縣下都賀郡富山村大字西山田三番地
平民農神原善次外百十名代人兼
同縣同郡同村同大字百一番地平民農

原 告

白 石 幸 藏

外 一 名

右原告兼代人白石幸藏外一名ヨリ被告下都賀郡長佐藤保之ニ對スル共有草山並ニ山林讓與ノ稟請ニ對スル不當處分取消要求ノ件訴狀ニ就キ審査スルニ原告ハ居村大字西山田本郷組共有ノ草山九十五町七段三畝歩及ヒ山林三畝歩ハ漠然共有名義ニテ放任スル片ハ濫リニ草木ヲ採取シ保護養成ノ途立タサルヨリ共有者熟議ノ上組内百十八名ニ讓與シ各自使用監督ノ區域ヲ明カニシ責任ヲ分擔セント村會ノ議ニ付シ其可決ヲ經本村長ヨリ被告郡長ニ稟請シテ其許可ヲ乞ヒシニ郡長ノ之ヲ許可セサルハ不服ニ付該處分ノ取消アラソコトヲ縣知事ニ訴願セシニ縣知事モ亦之ヲ取消ス可キ限リニアラストノ裁決ヲ爲シタレトモ尙ホ不服ナルニ因リ該處分ヲ取消シ速ニ稟請ヲ許可スヘキ額裁判ヲ仰クト云フニ在リト雖町村有不動産ノ曹却讓與ニ關シテハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ナキヲ以テ之ヲ提起スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

明治二十四年九月二十八日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(廿八) 立椽井堰水掛地價更正不當處分取消ノ件

○明治二十四年第四十八號

裁 決 書

三重縣伊勢國多氣郡五ヶ谷村大字古江一番屋敷

平民山本藤兵衛外五百三十名總代人

原 告

土 居 光 華

右原告土居光華ヨリ三重縣知事成川尙義ニ對スル立椽井堰水掛地價更正不當處分取消ノ件ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ本訴立椽井堰ノ費用ハ舊和歌山藩ノ金藏及郡米ヨリ支辨シ來レル者ナルニ明治九年地租改正ノ際番外一號証ノ通り舊渡會縣ニ於テ舊慣ヲ破リテ之ヲ民費トナシ而シテ水掛地ノ地價ヲ減少セサルハ不當ナリト云フニ在レモ本件ハ

法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ出訴シ得ルノ限リニアラス

右ノ理由ナルニ依リ本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下ス

明治二十四年九月二十九日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(廿九) 郡會議員撰舉手續取消ノ件

○明治廿四年第五十二號

裁 決 書

長野縣上水内郡鳥居村々會議員日井留三郎

外八名代人兼同村二十二番地平民農

原 告

矢 島 仙 右 衛 門

外 二 名

東京市神田區表神保町八番地代言人

訴訟代理人

大 井 憲 太 郎

外二名

右原告矢島仙石衛門外二名ヨリ被告長野縣知事淺田德則ニ對スル郡會議員選舉手續取消ノ件訴狀ニ就テ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ明治二十四年四月廿九日上水内郡長ノ告示第十七號ニ基キ鳥居神郷ノ兩村會々同シテ開會シタル郡會議員選舉會ハ選舉手續ニ違法ノ廉アリ且自撰投票ヲ有効トセシヲ以テ郡長及縣知事ニ訴願シタルニ其裁決ニ服從スル能ハサルヲ以テ行政裁判法第十七條ニ據リ提起セリト云フト雖本件ハ郡制第二十五條ニ該當スル縣知事ノ裁決ヲ不服トスル行政訴訟ナルヲ以テ郡制第七十三條第三項ニ依リ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘキモノナリ然ルニ本訴ハ既ニ右ノ出訴期限ヲ經過シタルモノナレハ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルノ權ヲ失ヒタルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス
明治二十四年十月七日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

行政裁判法

第十七條 (本部第六ノ(參照)ニ出ツ)

郡制

第二十五條 郡會議員被選舉ノ有無及選舉ノ效力ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十三條第三項 此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

(三十) 縣參事會裁決不服ノ件

○明治二十四年第二十五號

裁 決 書

大分縣豐後國大分郡高田村長

原 告 中 村 默 二

東京府東京市京橋區彌左衛門町一番地寄留

岡山縣平民代言葉

代理人

三宅碩夫

右原告中村默二ヨリ被告豊後國北海部郡川添村長村上彌宗ニ係ル郡界訴願事件ニ對スル縣參事會裁決不服ノ件訴狀ニ就テ審査スルニ本訴係争地ハ古來原告村ニ於テ大津留村ヨリ借地セシモノナルニ被告村ハ自村ノ貸地ナリト主張シ訴願シタルニ對シ縣參事會ノ與ヘタル裁決ハ不當ナレハ之ヲ取消シ被告村ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在レトモ縣參事會ノ與ヘタル裁決ハ明治二十四年三月九日ニシテ原告ハ即日其送達ヲ受ケテ而シテ本訴ヲ起提シタルハ同年六月二日ナレハ原告カ住居地ヨリノ距離三百二十三里余ノ路程八里毎ニ一日ノ伸長期間四十一日ヲ除クモ己ニ町村制第二百二十條第三項ノ出訴期限ヲ經過シタルモノナレハ本訴ハ提起スルヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニヨリ訴狀ヲ却下ス

明治二十四年十月九日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

町村制

第二百二十條第三項 (本部第一ノ(參照)ニ出ツ)

(卅) 有給吏員ノ給料ニ關スル件

○明治二十四年第六十七號

裁決書

茨城縣下總國結城郡江川村大字七五三場

十番屋敷平民農

原告

船橋文彌

右原告船橋文彌ヨリ茨城縣下總國結城郡江川村村長大島宗助ニ對スル有給吏員ノ給料ニ關スル件訴狀ニ就テ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ原告ハ結城郡江川村役場書記在職中ニ係ル明治二十二年六月ヨリ九月ニ至ル四箇月間俸給其他實費辨償額ノ拂渡ヲ被告村長ニ請求スルニ拂渡ヲ爲サハル

ニ依リ町村制第七十八條ニ從ヒ原告提供甲第十號証ノ金三拾六圓四拾五錢ト明治十年太政官布告第六十六號利息制限法第三條ニ依リ法律上ノ利息金四圓參拾九錢四厘トヲ合計シ速ニ被告ヨリ償却スヘシトノ裁判ヲ請求スト云フニ在ルモ本件ハ給料其他支給ヲ受クヘキ金員ノ拂渡ヲ請求スルモノニシテ町村制第七十八條ノ給料ニ關スル異議ニ非ラサルヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘカラサルモノトス

右ノ理由ナルニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス

明治二十四年十月十九日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(參照)

利息制限法

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ハラヌ百分ノ六(六分)トス

町村制

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アルモノハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ

裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

(卅二) 營業許可取消ノ件

○明治二十四年第七十五號

裁 決 書

東京市芝區田町四丁目十二番地鈴木次郎吉
外二十九名總代人

同市同區同町同丁目十五番地平民薪炭業

原 告 大崎 藤 次 郎

外 三 名

同市日本橋區蠣殼町二丁目四番地士族代言人

右四名代理人 北 田 正 董

右原告大崎藤次郎外三名ヨリ被告警視總監園田安賢ニ對スル營業許可取消ノ件訴狀ニ

就テ審査スルニ其要旨ハ被告カ明治廿四年十月十六日付指令ヲ以テ東京市芝區田町四町目二番地へ品川電燈會社移轉營業ヲ許可シタルハ人家稠密ノ場所ニ於テ斯カル危険ノ營業ヲ許可セハ近傍家屋及人身ニ患害ヲ及ホスハ必然ニシテ多數人ノ權利ヲ毀損スル違法ノ處分ナルニ付右營業許可ノ取消ヲ請求スト云フニ在リト雖被告カ品川電燈會社ニ與ヘタル移轉營業ノ許可ハ其職權内ノ處分ニシテ法律規則ニ違反シタル所ナキヲ以テ行政訴訟ヲ提起シ得可キモノニ非ス
右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス
明治二十四年十一月十八日行政裁判所ニ於テ裁決ス

(卅三) 不當命令取消ノ件

裁 決 書

新瀧縣越後國新瀧市東仲通一番町二十番戶
平民請負業

原 告

稻 月 光 造

東京市芝區琴平町一番代地言人

訴訟代理人

大 谷 元

右原告稻月光造ヨリ新瀧縣知事籠手田安定ニ對スル不當命令取消ノ件訴狀ニ就テ審査スルニ

原告請求ノ要旨ハ明治二十四年七月十日新瀧縣廳ニ於テ縣下中蒲原郡臼井村地内樋管伏込工事ノ請負入札ヲ施行セラレタルニ付原告ハ縣令甲第二十三號改正土木工事請負規則ニ基キ甲第三號証ノ如ク入札ヲ爲シ落札シタルニ依リ同規則第十七條ノ規定ニ從ヒ甲第四號証ノ如ク受書ヲ差出シ併セテ保證金ヲ納メ甲第五號証ヲ受領シタリ爾後甲第七號乃至甲第十三號ノ如ク工事用材集收ノ準備ヲ爲シ漸次夫々約定ヲ取極メタリ且明治二十四年七月二十二日信濃川洪水ノ際ハ平水マテ工事着手難相成段甲第六號証ノ如ク届書モ差出シタル次第ニテ工地上最モ注意ヲ加ヘタリ而シテ甲第十三號約定人

塩谷榮藏ヨリ本縣工營所ニ樋管用材ヲ納付シ且甲第十四號乃至甲第十七號證ノ如ク木
 材ヲ集メ人夫ヲ使役シ着々工事ニ着手中突然甲第一號證ノ如ク工事請負取消ノ命令ヲ
 發セラレ而シテ該工事ハ他人ニ請負ヲ命セラレタリ之ヲ要スルニ被告ニ於テハ原告カ
 故ナクシテ工事ヲ延滞シタルモノトナシ成功期限ノ餘日アルニモ拘ハラヌ土木請負規
 則第二十六條ニ依リ處分ヲ爲シタルハ頗ル不當ナルヲ以テ該命令ノ取消ヲ求ムト云フ
 ニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ
 提起シ得ヘカヲサルモノトス
 右ノ理由ナルニ依リ行政裁判法第二十七條ニ依リ本件ハ之ヲ却下ス
 明治二十四年十一月三十日行政裁判所ニ於テ裁決ス

行政裁判所判決例第壹編終

23/6/35

明治二十七年六月一日印刷
明治二十七年六月六日發行

定價金十五錢

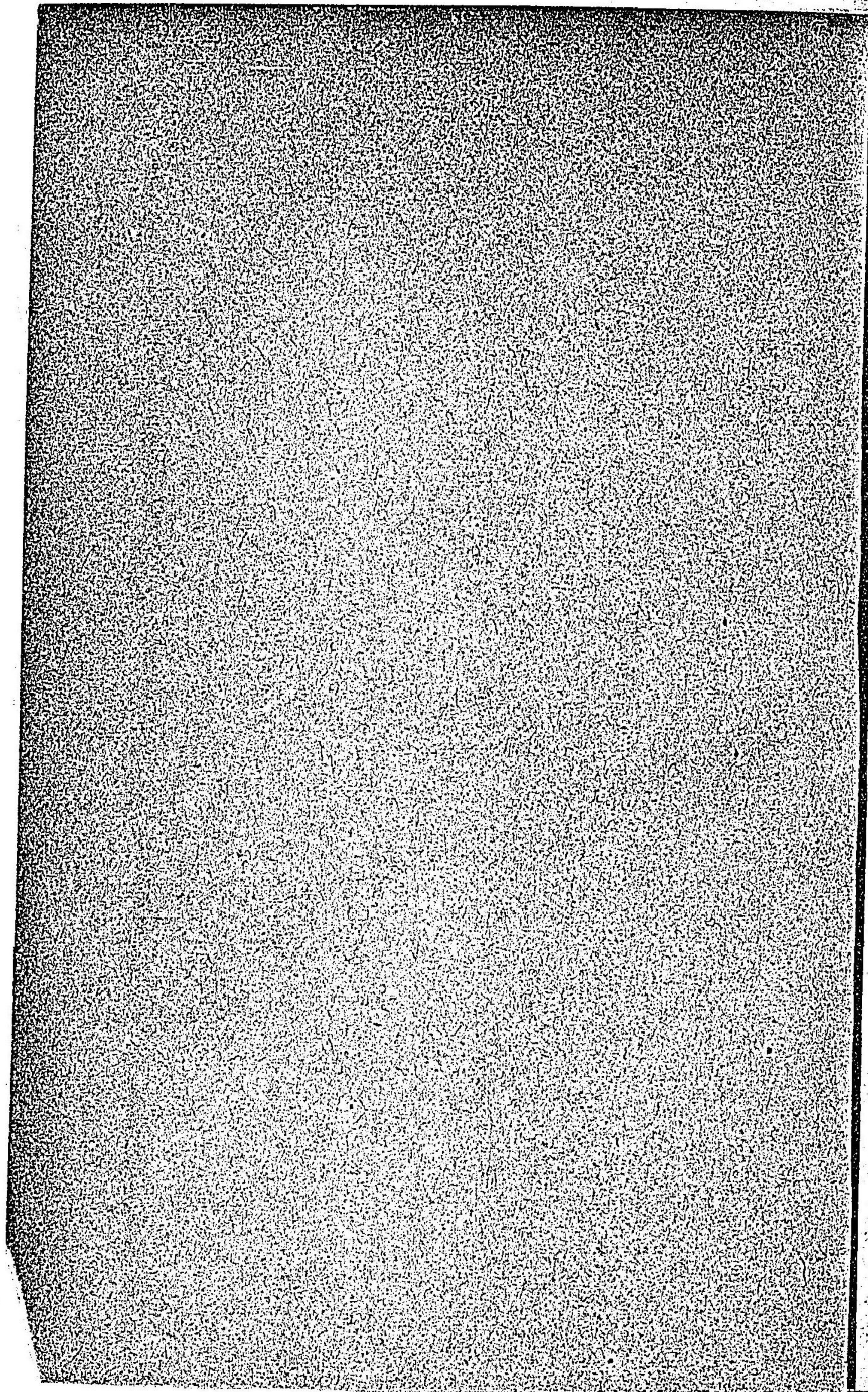
著者 岐阜縣岐阜市大字富茂登 四十八番戶 三一 宅 彰

發行者 岐阜縣岐阜市今泉大字泉町 四百二十四番戶 片山 克武

印刷者 岐阜縣岐阜市今泉大字泉町 四百二十四番戶 寄留 山本 彦右衛門

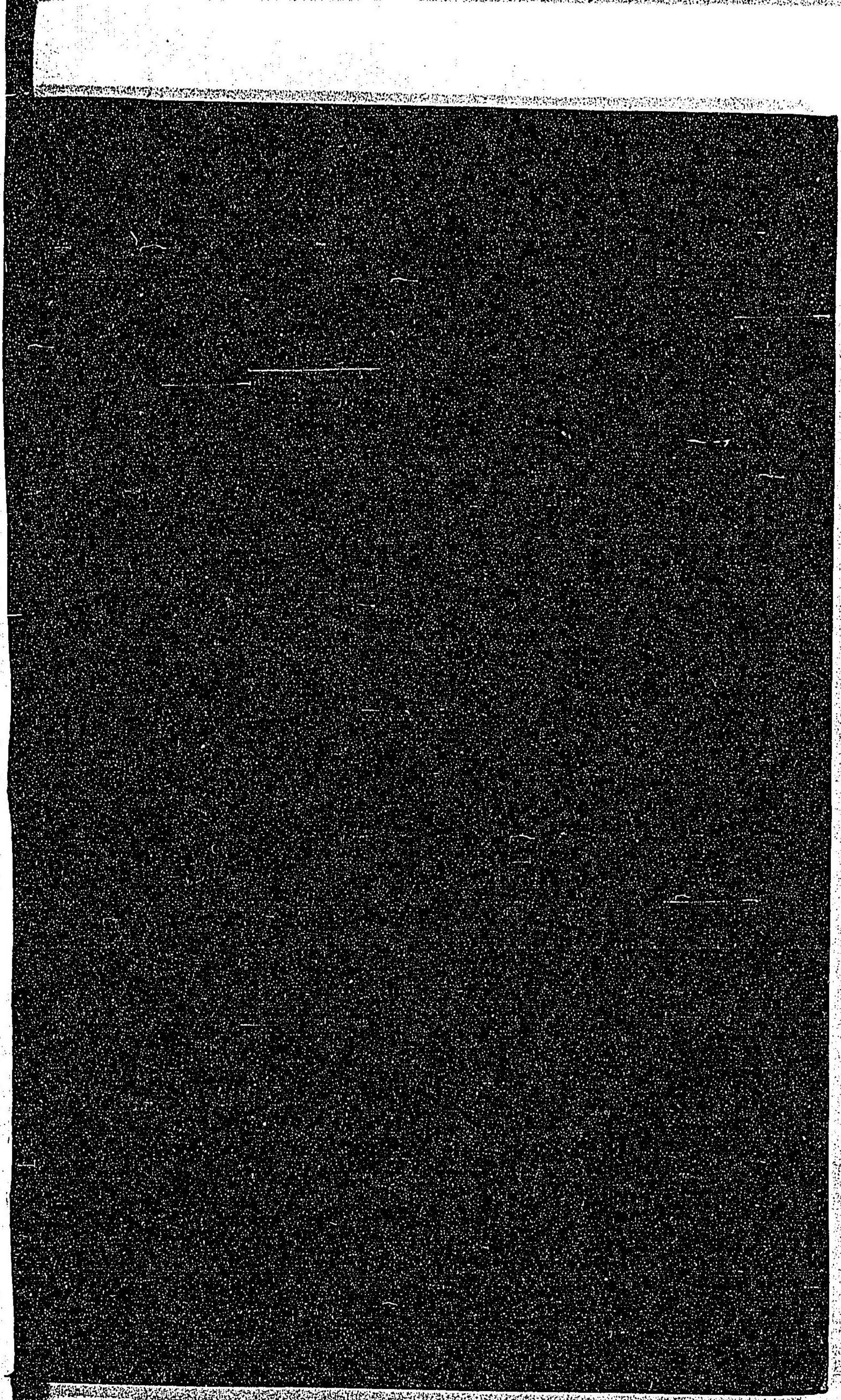
發行所 岐阜縣岐阜市今泉大字泉町 四百二十四番戶 啓 文社

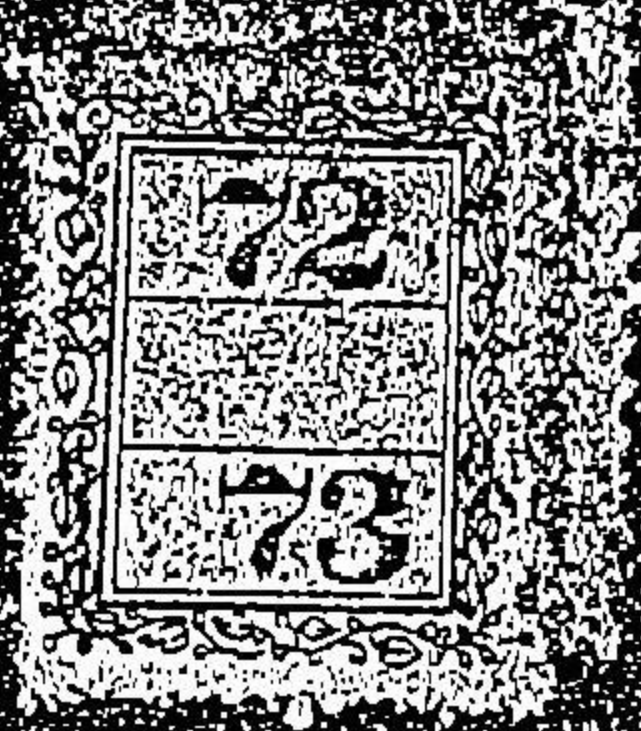




此書係由
某某人
所著
其內容
極為
豐富
且
具
有
極
高
之
學術
價值
故
特
將
此
書
影
印
出
來
以
便
閱
者
之
參考
也
此
書
之
出版
係
由
某某
出版社
所
承
辦
其
印刷
之
品質
亦
極
為
優良
故
特
將
此
書
影
印
出
來
以
便
閱
者
之
參考
也
此
書
之
出版
係
由
某某
出版社
所
承
辦
其
印刷
之
品質
亦
極
為
優良
故
特
將
此
書
影
印
出
來
以
便
閱
者
之
參考
也

12
2
73





036525-001-8

CZ-2311-02

行政裁判所判決例(官民必携)

三宅 彰/編

M27

BBR-0261



